

平成27年9月24日
まちづくり町民講座

データで読み解く二セコの姿 ～二セコ町の人口はなぜ増えているのか？～

二セコ町 自治創生室

本日の内容

1. 「地方創生」が目指すもの
2. ニセコ町の人口分析結果（速報版）
3. 「客観的データ」を使いこなす

本日のアプローチ

- 統計情報や町民アンケート等の「客観的データ」が何を意味しているかを考えます。
(皆で考え、新たに気づく・閃くことの実体験！)
- 二セコ町の地域の魅力や強み・弱みを捉え、町が重点化すべき方向性まで見出せたら、本日はパーフェクト！
- 第1回自治創生協議会資料「人口分析結果（速報版）」（＋α）に、講演者が実際に考えてみたことを示して、議論を投げかけます。

1. 「地方創生」が目指すもの

人口減少の要因「人口一極集中」

地方の若者が、出生率が低い都市圏（特に東京）へ流れてしまう「人口一極集中」により、日本の人口減少が進んでいる。

地方の若者が都市圏に流れる

- ✓ 都市圏なら仕事がある
- ✓ 都市圏なら高校・大学がある
- ✓ 都市圏なら結婚の出会いがある
- ✓ 都市圏の方が楽しそう

地方

都市圏

【自然減】 出産・子育て環境が悪く、子どもが増えない
【社会減】 地方の子どもが増えず、都市圏への流れも減少

【自然減】 若者が地方に残らないと、子どもが増えない
【社会減】 地方の魅力を支える人材が不足し、地方への移住者も増やせない

人口減少



地域の基盤産業や社会福祉等を支える人材確保が困難になる
インフラ（上下水道、道路等）の維持が困難になる 等の影響

「地方創生」が目指すもの（人口減少の克服）

- 「地方創生」は、人口減少に歯止めをかけ、都市圏への「人口一極集中」を是正することによって人口減少の克服を目指している、オールジャパンの取組。
- 地方は、自らの魅力や強み・弱みを客観的に捉えて戦略的に、「まち・ひと・しごと創生」（雇用の創出、移住・定住支援、結婚・出産・子育て支援、人口減により影響への対応等）に取り組む。



1. 地方における安定した雇用を創出する 【雇用】
2. 地方への新しい人の流れをつくる 【移住による人口増（社会増）】
3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる 【出産による人口増（自然増）】
4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する 【人口減少への適応】

今までの地域政策とはどう異なるのか？

地方創生のアプローチは、従来の政策の検証（縦割り・全国一律・バラマキ・表面的・短絡的）を踏まえ、**人口減少の克服を確実に実施**することを目指している。

（１）自立性

一過性の対症療法的なものにとどまらず、構造的な問題に対処し、地域の自立につながるものにする。また、地域内外の有用な人材の積極的な確保・育成を急ぐ。

（２）将来性

地方が自主的かつ主体的に、夢を持って前向きに取り組むことに重点を置く。

（３）地域性

各地域の実態に合った施策に取り組むため、客観的データに基づき実状分析や将来予測を行う。

（４）直接性

ひとの移転・しごとの創出やまちづくりに直接的に取り組む施策を集中的に実施する。

（５）結果重視

明確なPDCAメカニズムの下に、短期・中期の具体的な数値目標を設定し、政策効果を客観的な指標により検証し、必要な改善等を行う。

※「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（平成26年12月閣議決定）を参考に二セコ町編集

2. ニセコ町の人口分析結果（速報版）

- （1）総人口
- （2）人口の自然増減
- （3）人口の社会増減
- （4）就業・雇用等

データで読み解くニセコ町の姿（概要）

人口

人口5,000人規模の町村では珍しく、近年は人口が微増傾向

【社会増】 転入数 > 転出数

- 10歳未満（子ども）や30～44歳（働き盛り）で、転入が転出を上回る
- 20～30代の移動（転入・転出の両方）が特に多い

【自然減】 出生数 < 死亡数

- 出生数は増加傾向にあり、合計特殊出生率は北海道全体を上回る
（合計特殊出生率：1.45（2008～2012））
- 増加傾向にある出生数を、死亡数が上回る

雇用

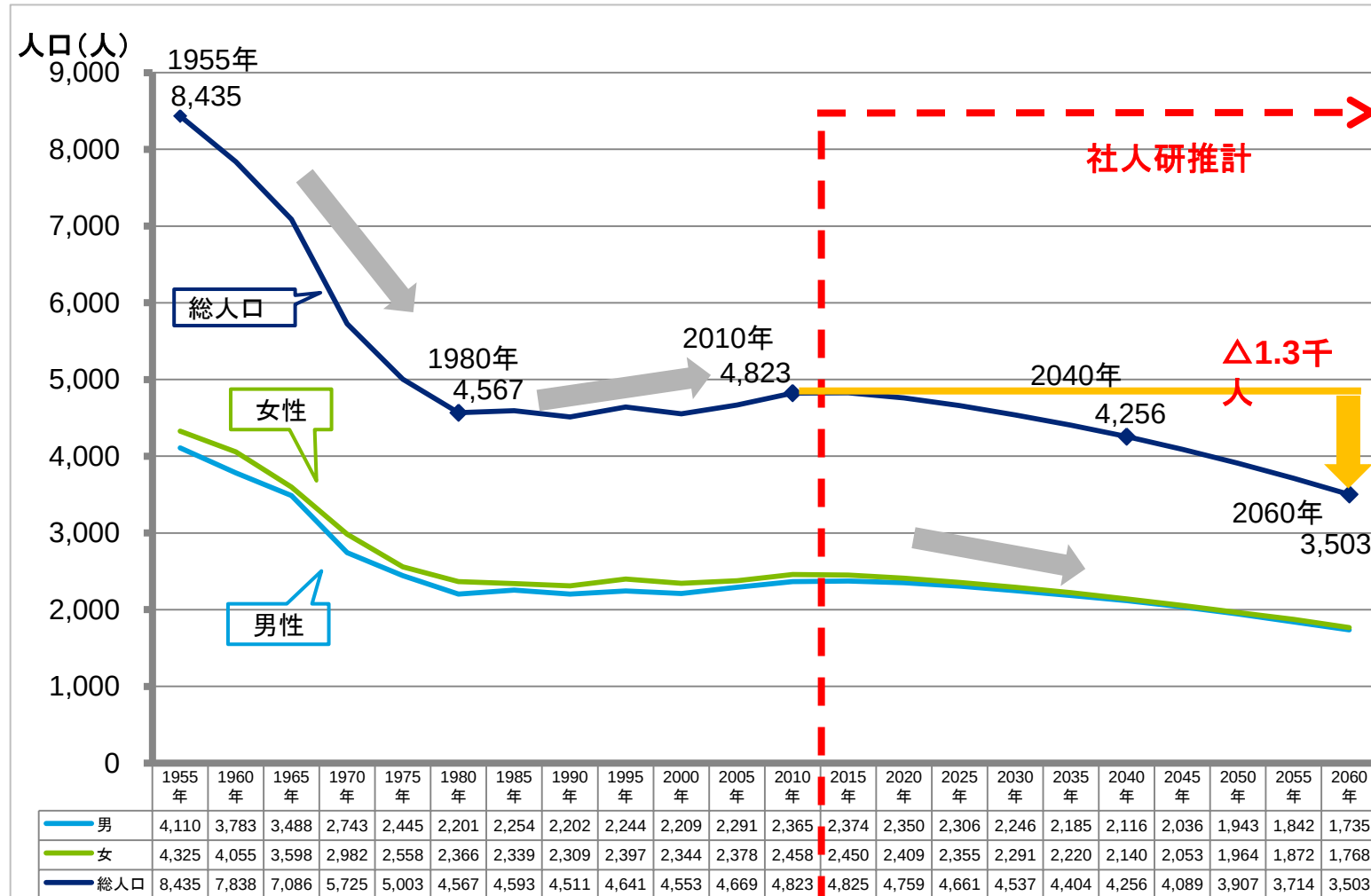
- 従業者数は「農業・林業」と「宿泊業、飲食サービス業（観光業）」が多い
- 正規職員割合が低く、完全失業者数・完全失業率とも増加傾向

2. ニセコ町の人口分析結果（速報版）

（1）総人口

本町の総人口は、1980年以降横ばいから増加傾向で推移してきましたが、今後2060年には3503人まで減少することが見込まれています

総人口の推移、推計



二セコ町は「住みたいのに住めない人」がいるほど注目の町！

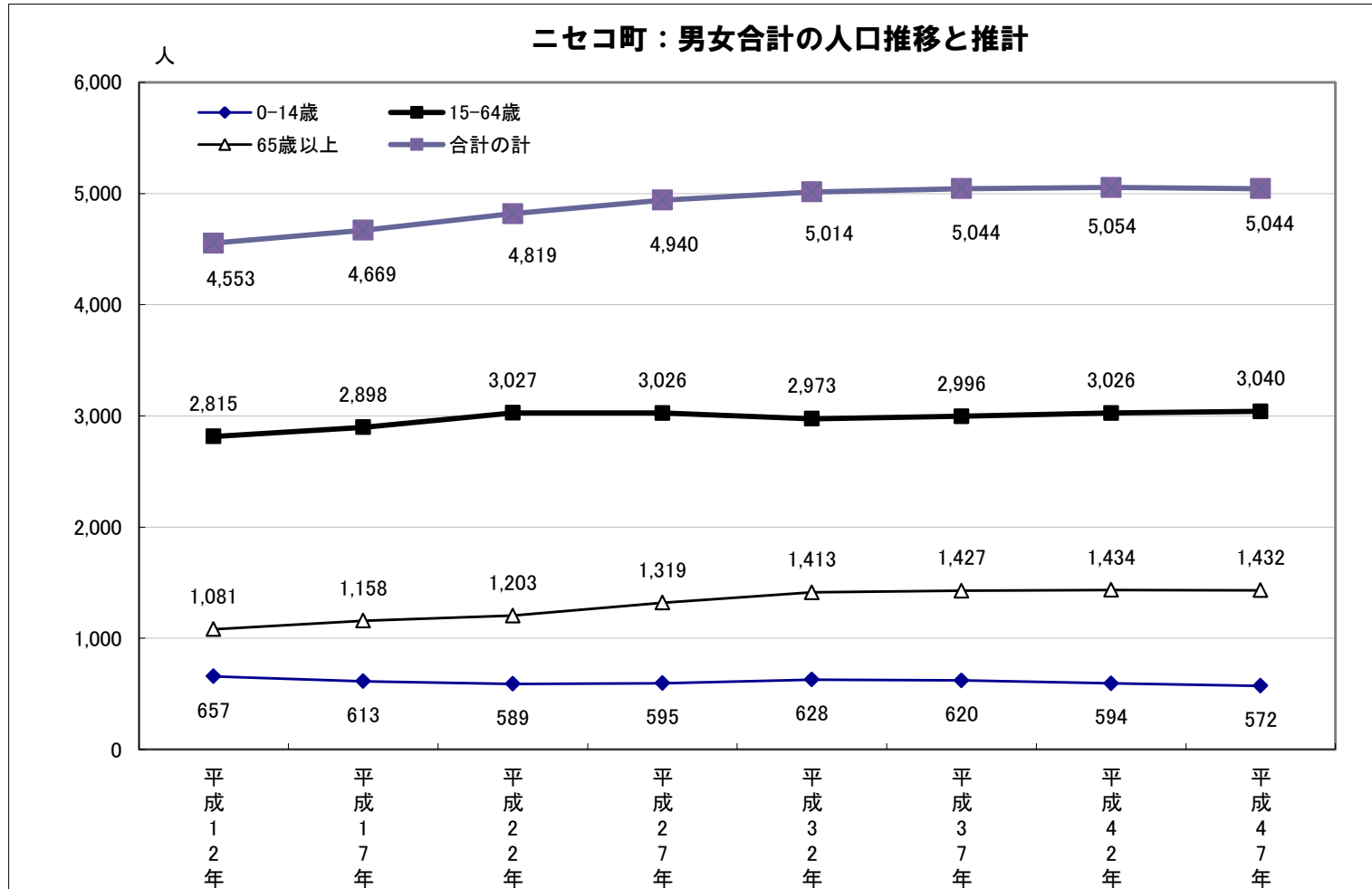
他の自治体のようにまっすぐ減少する推計は、町の実態を反映できていない！

住宅建設の動向などを的確に反映すべき！

出所： 国勢調査(1955年～2010年)、社人研推計(2015年～2060年) ※RESAS(地域経済分析システム)を使用

第5次総合計画では、全人口は平成42年(2030年)の5,054人をピークに増加傾向を辿ると推計されています

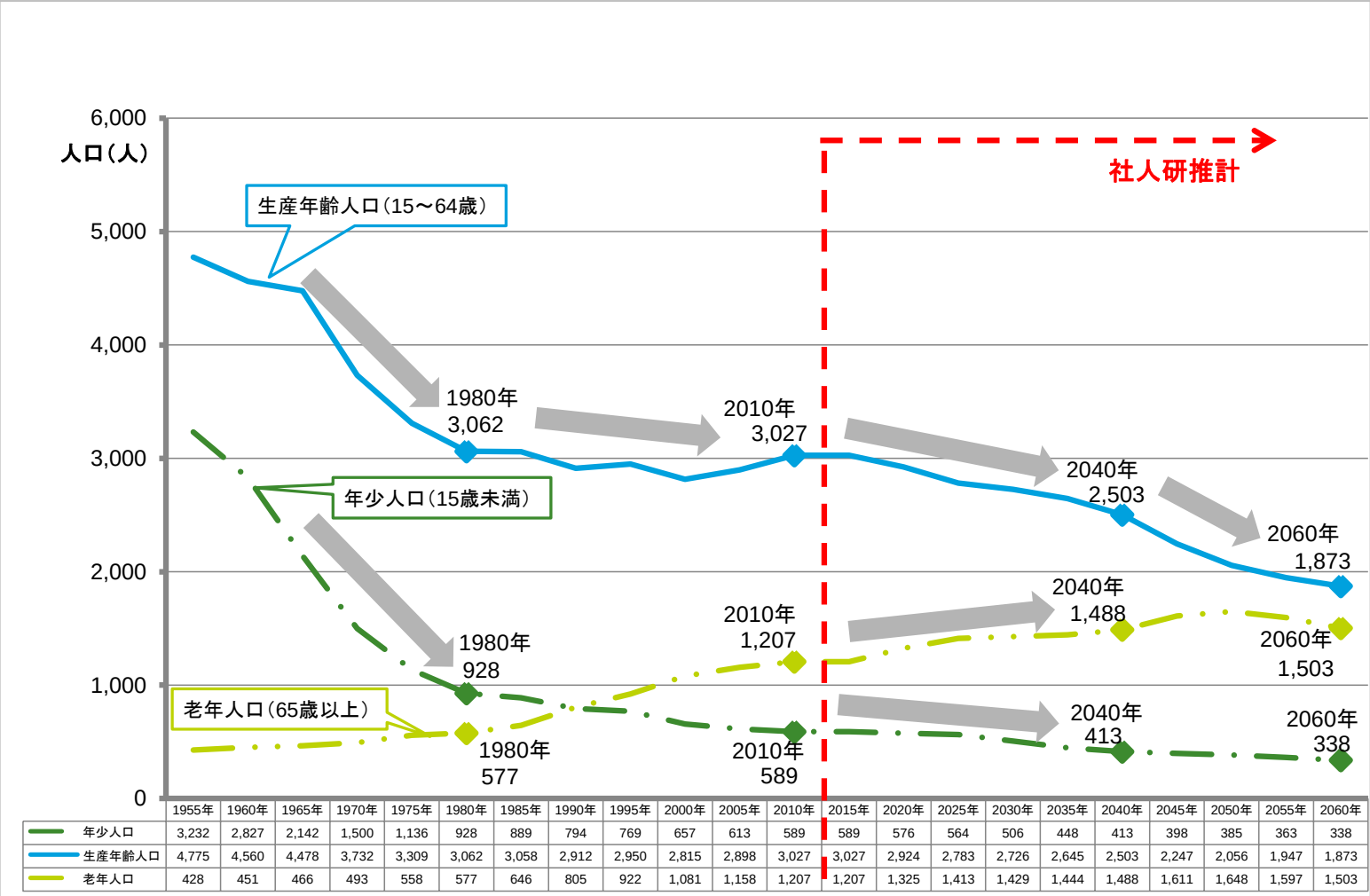
総合計画の人口推計



まずは、総合計画と社人研の推計方法がどのように異なるのか精査すべき！

生産年齢人口及び年少人口が減少する一方、老年人口は2060年には2010年比で約1.2倍となる見込みです

年齢区分別人口の推移、推計

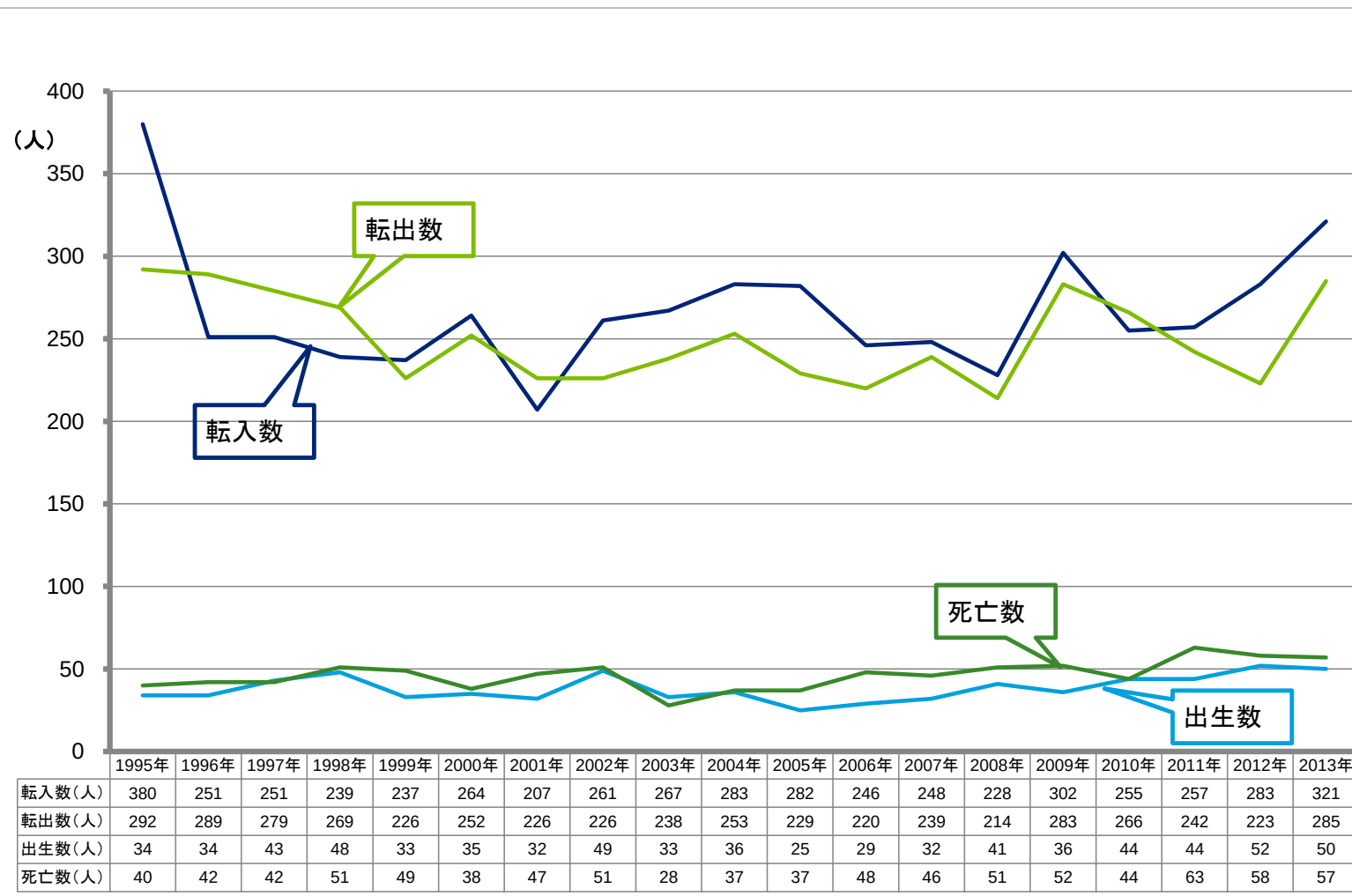


- 生産年齢人口は1980年以降緩やかに減少し、2010年以降も減少傾向で推移すると見込まれています
- 老年人口は1980年の928人から2010年には1,207人と増加しています
- 老年人口は2015年以降も2040年まで増加し続ける見込みであり、2060年には2010年の約1.2倍の1,503人となる見込みです

出所： 国勢調査(1955年～2010年)、社人研推計(2015年～2060年) ※RESAS(地域経済分析システム)を使用

本町の総人口は、社会増減は増減を繰り返し、自然増減はほぼ横ばいで推移しています

出生数、死亡数、転入者数、転出者数の推移



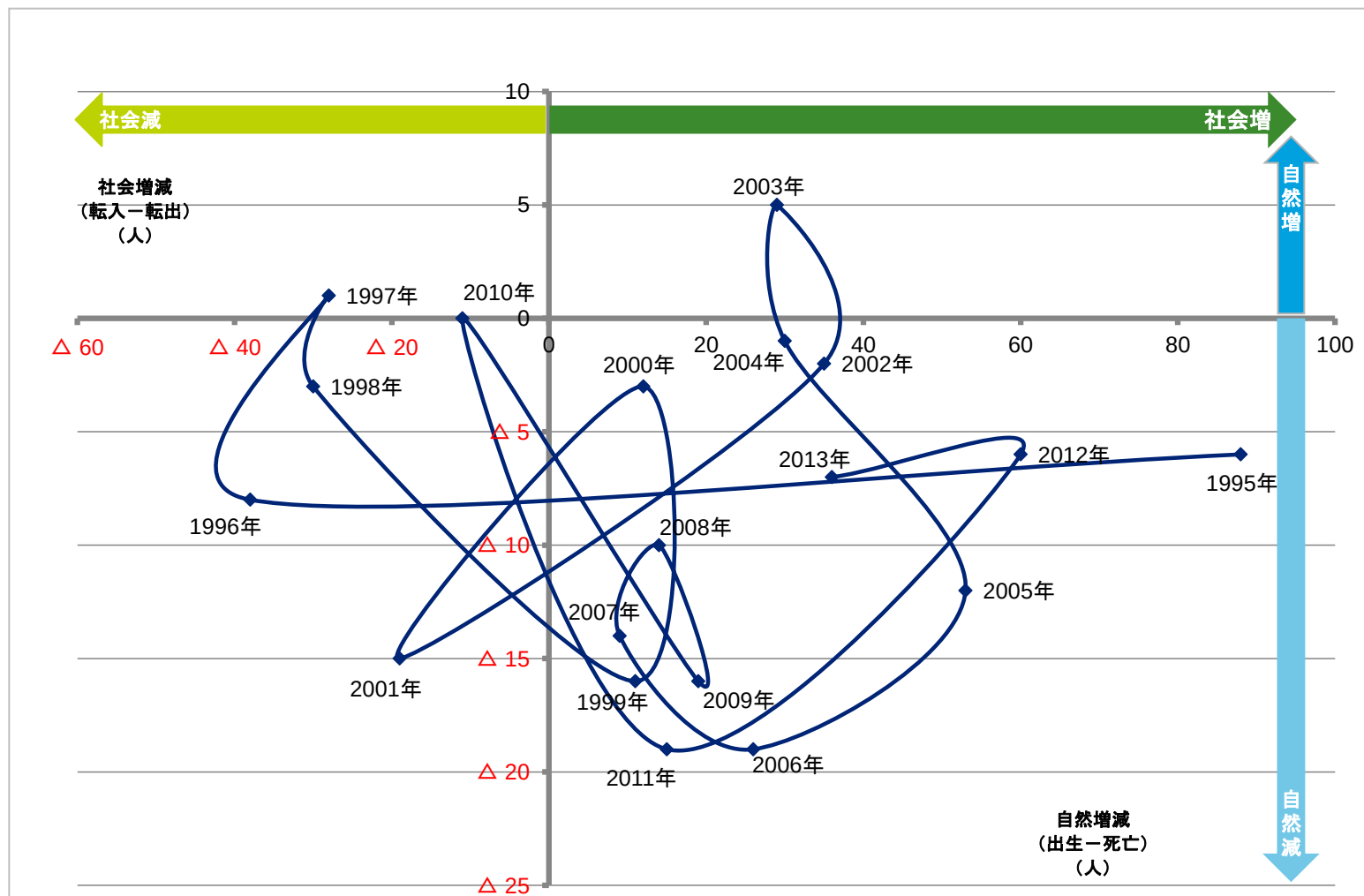
移住者を惹きつけている二セコ町の魅力とは何か？

全国的な人口減少、他自治体に移住・定住対策に本腰を入れていく。
二セコ町の人口増加も、いつか勢いが弱まるおそれはないか？

出所：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査 ※RESAS（地域経済分析システム）を使用

人口増減では2011年より社会増減は増加傾向が強まる一方、自然増減は近年減少傾向となっています

人口増減の影響度分析



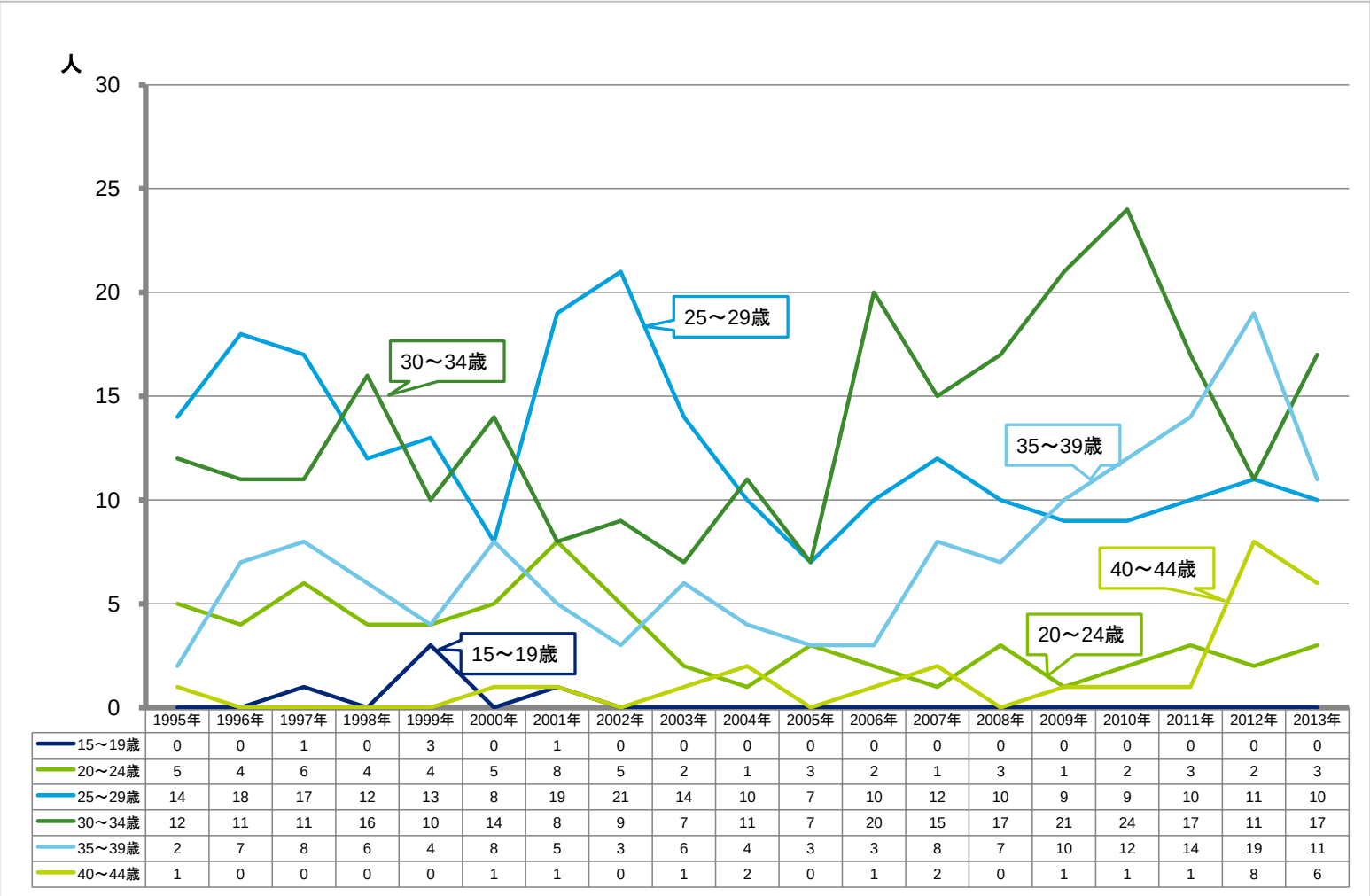
社会増の推進と
自然減の改善、
取組の優先度に
差はあるのか？

出所：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査 ※RESAS（地域経済分析システム）を使用

2. ニセコ町の人口分析結果（速報版） （2）人口の自然増減

女性の年齢別出生数の推移は、20代の出生数が横ばいで推移し、30代以降に出産する傾向が強まっています

母の年齢別出生数の推移



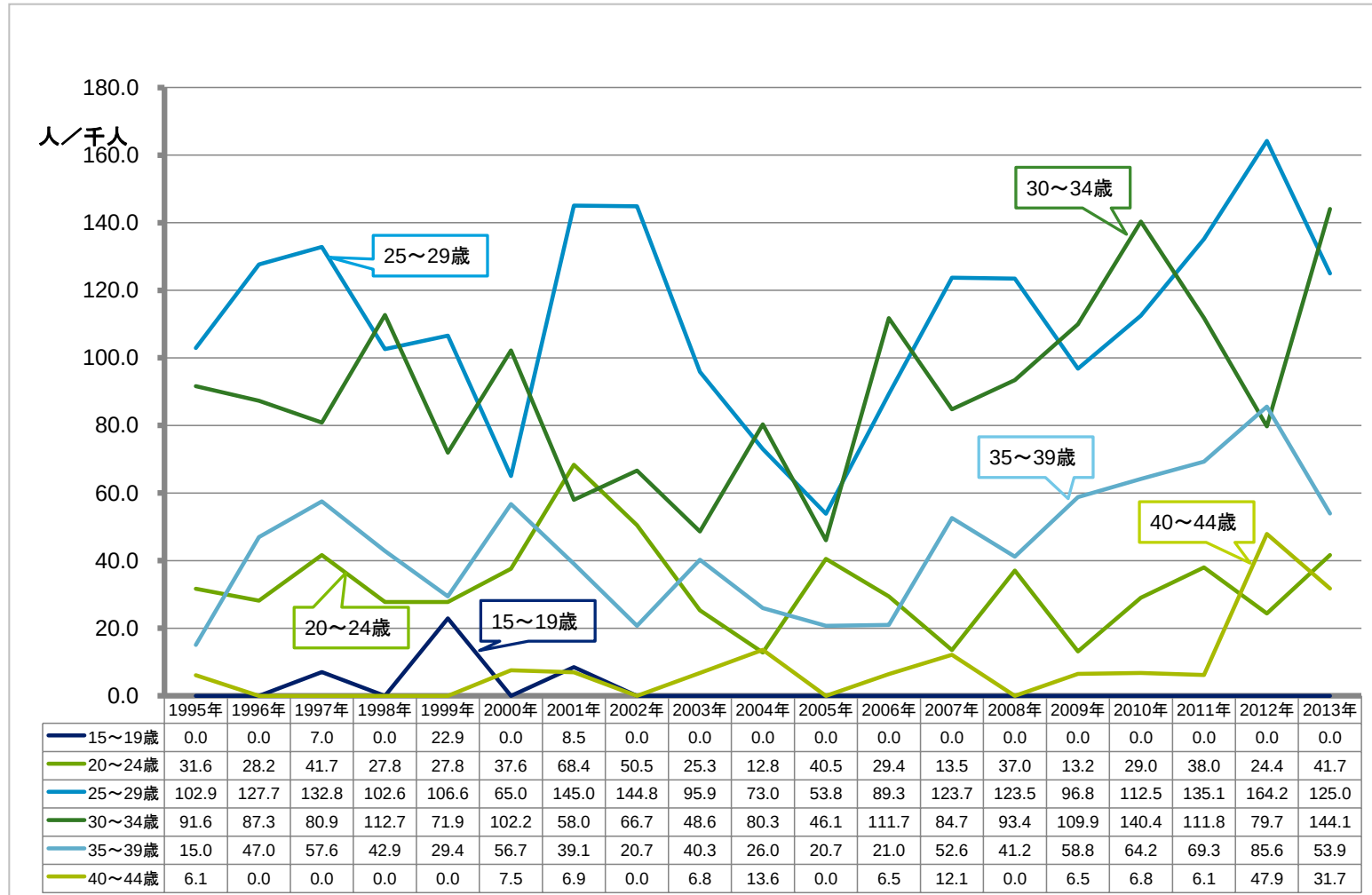
- 20～24歳での出生数は、2001年をピークに増減を繰り返し、2005年以降は横ばいで推移しています
- 25～29歳での出生数は、2002年をピークに減少し、2005年以降は横ばいで推移しています
- 30～34歳、35歳～39歳での出生数は、2005年以降は増加傾向で推移しています

出産年齢が上がることが、間接的に子ども数の減少につながっていないか？

出所： 人口動態調査(1995年～2013年)

女性1000人当たりの出生数(出生率)の推移は、近年20代、30代、40代ともに増加傾向にあります

女性1,000人当たり出生数の推移

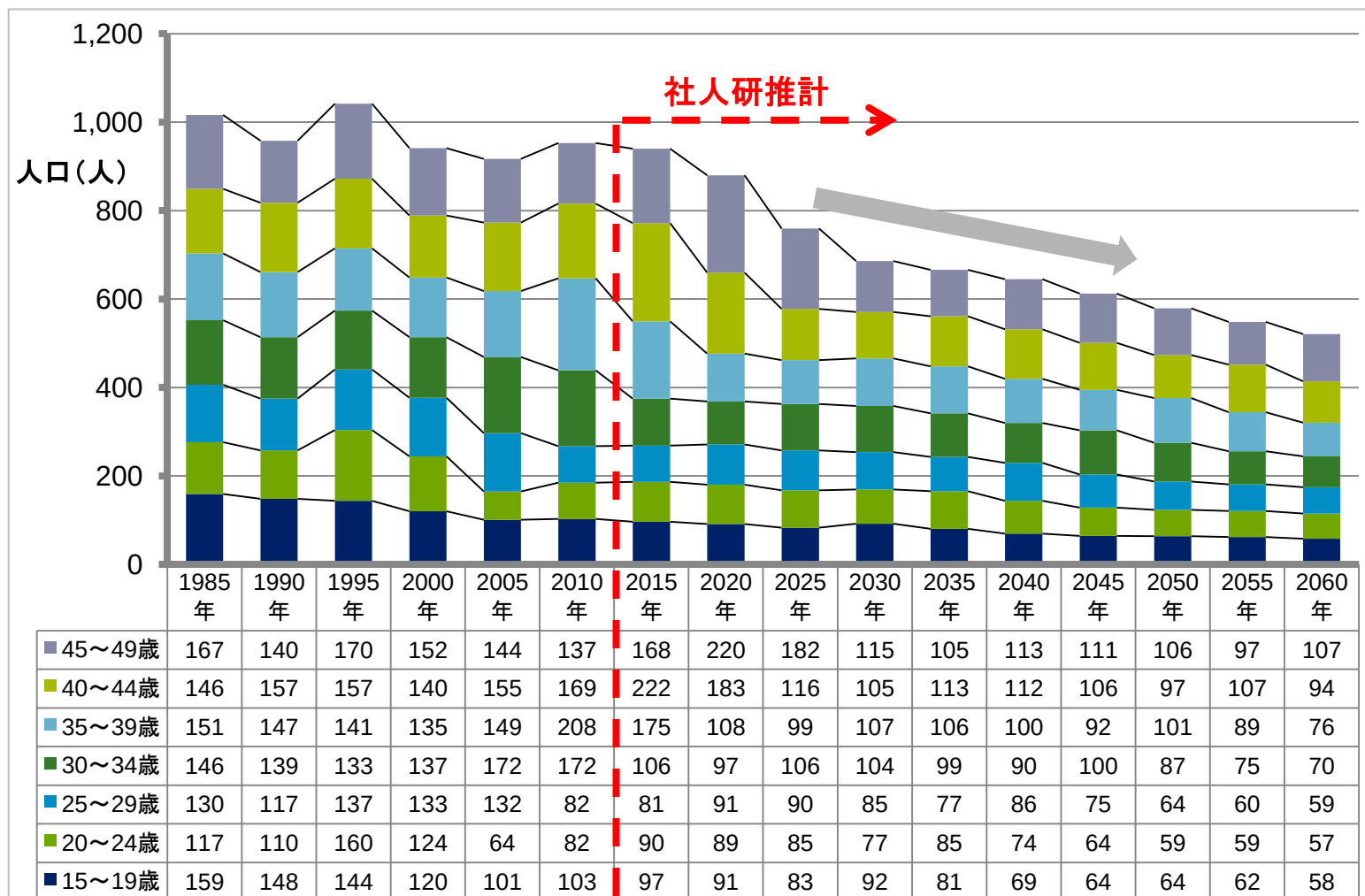


- 20代での出生率は増減を繰り返すも、特に20代後半においては、2005年以降増加傾向で推移しています
- 30代での出生率は、2005年以降は増加傾向で推移しています
- 40代での出生率は2011年以降増加傾向に転じています
- 25～29歳、30～34歳の出生率(女性1,000人あたり出生数)が高くなっています

出所：人口動態調査(1995年～2013年)

2015年以降15～49歳の女性人口は減少し続け、2060年には521人と、1985年の約半分になると見込まれます

15～49歳女性人口の推移(1)



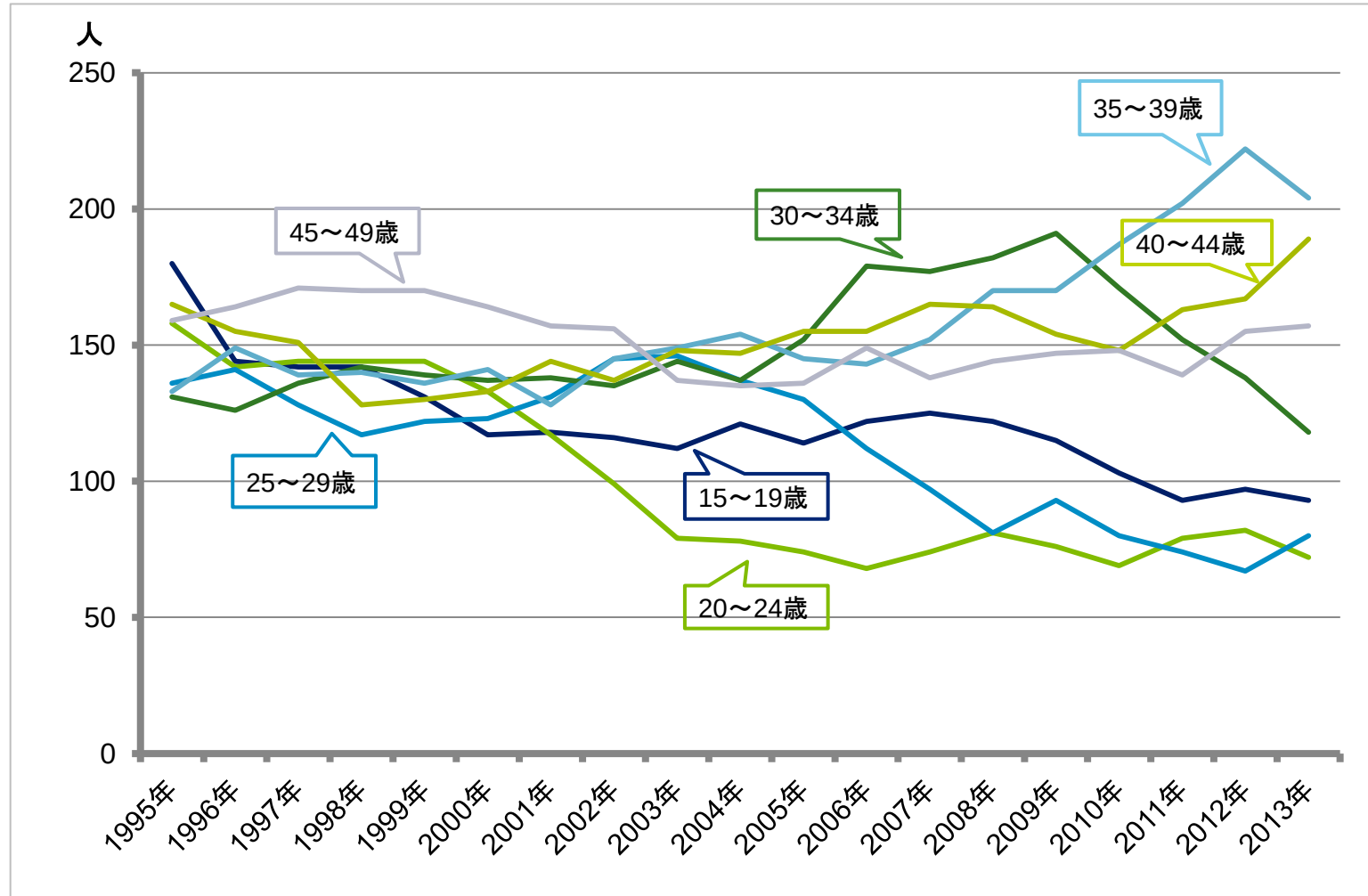
■ 1985年から2010年にかけては、15～49歳の人口は増減を繰り返していました

■ 20～39歳の女性人口は2010年の336人から、2040年には250人、2060年には186人になると見込まれています

出所： 国勢調査(1995年～2010年)、国立社会保障・人口問題研究所推計(2015年～2060年)

各年齢の女性人口は、35～44歳では増加傾向にあります、10代後半～30代前半の人口は減少傾向にあります

15～49歳女性人口の推移(2)

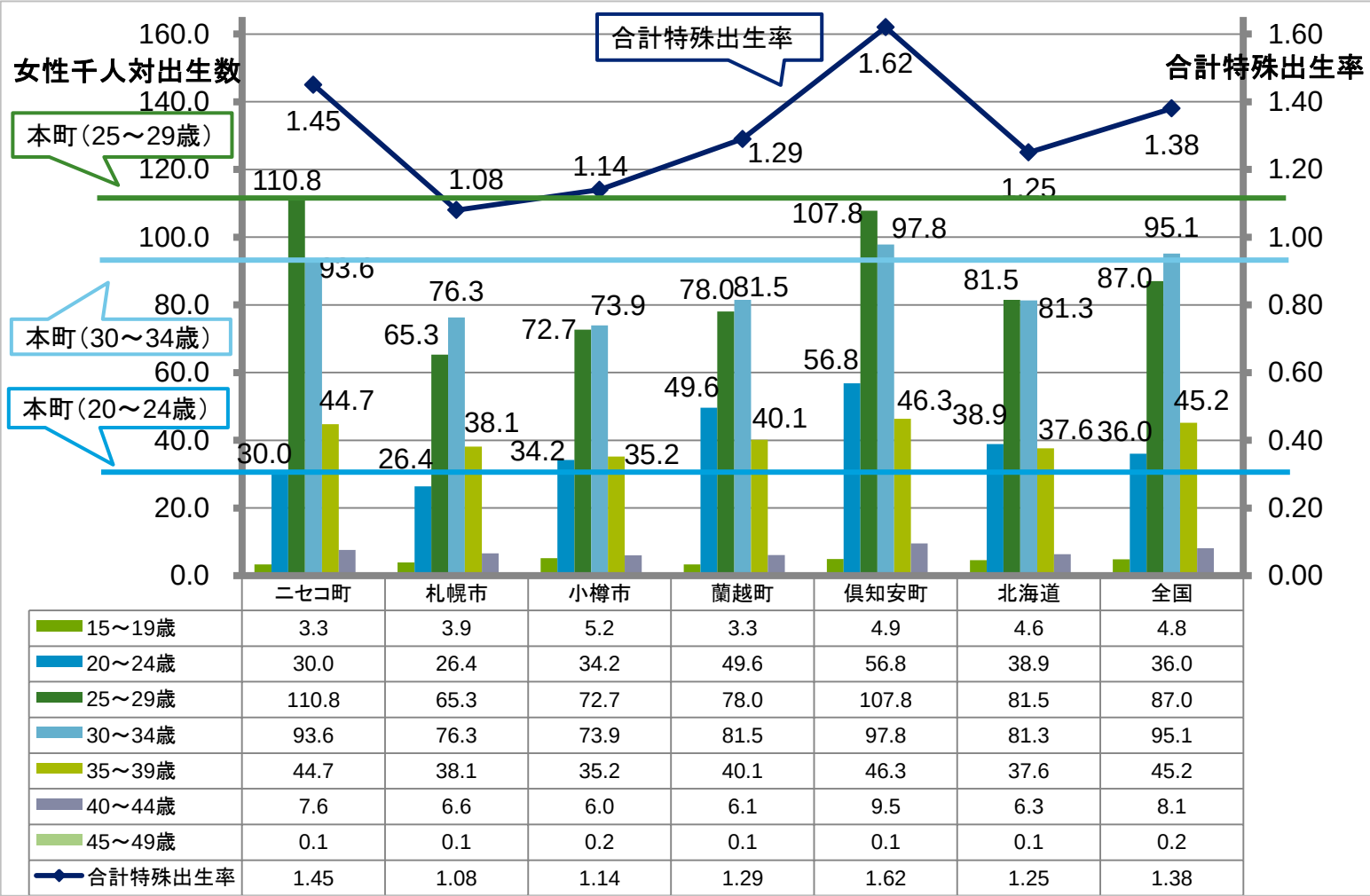


- 15～19歳は、2008年の122人から2013年には93人に減少しました
- 20～29歳は、2006年以降減少傾向にあり、近年は横ばいで推移しています
- 30～34歳は、2009年の191人をピークに近年減少傾向にあります
- 35～39歳は、1995年より横ばいで推移していましたが、2007年を境に増加傾向となりました
- 40～44歳は、1995年以降横ばいで推移していましたが、2011年以降増加傾向にあります

出所：住民基本台帳人口(1995年～2013年)

本町の女性の出生数は、25～34歳で、北海道水準や道内他市町よりも高い水準にあります

女性の出生数(千人当たり)、合計特殊出生率比較

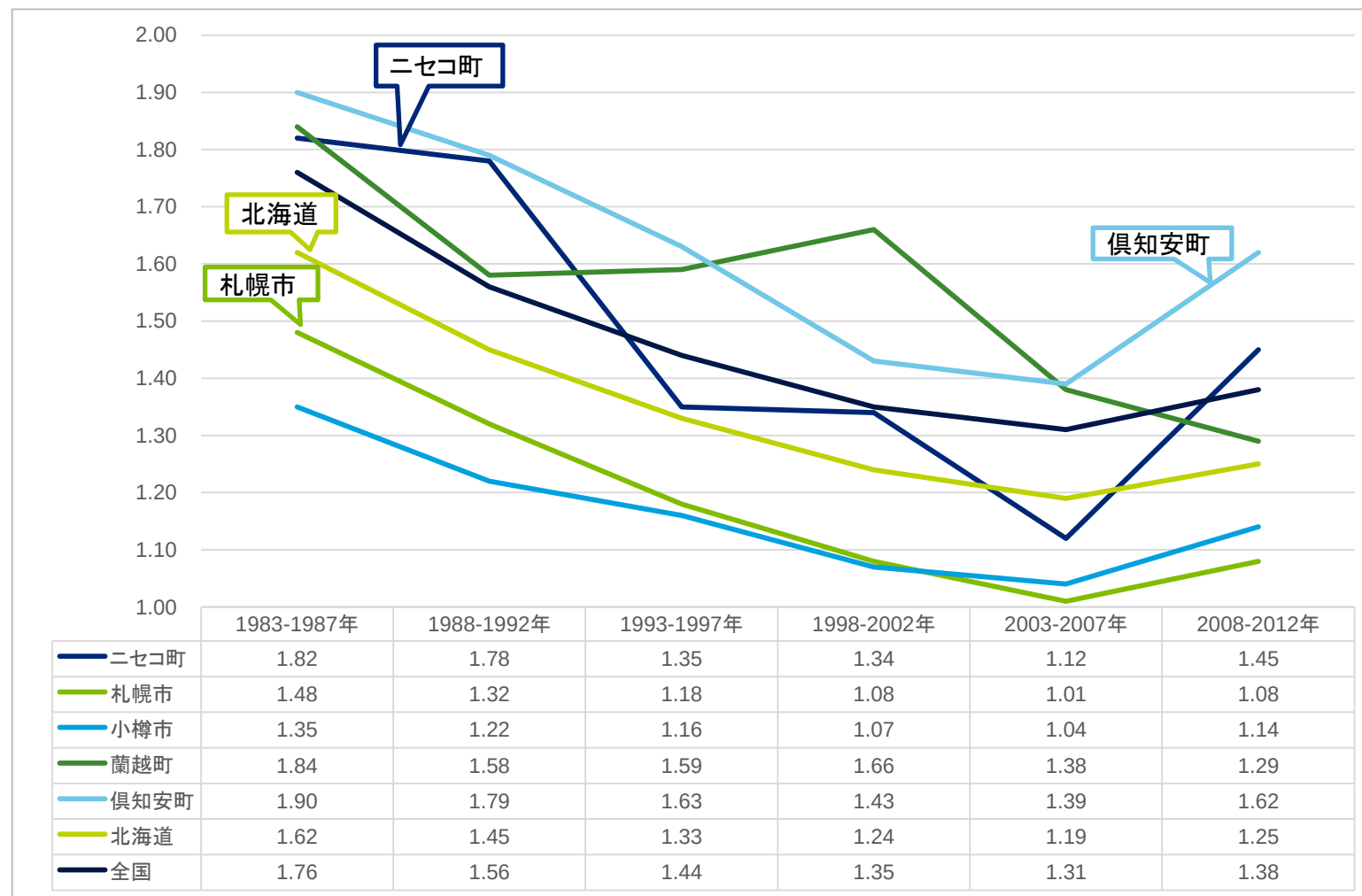


ニセコ町の合計特殊出生率はなぜ高いのか？

出所: 人口動態調査(2008年～2012年)

本町の合計特殊出生率は、2008 - 2012年で1.45と北海道水準よりも高くなっています

合計特殊出生率の推移比較

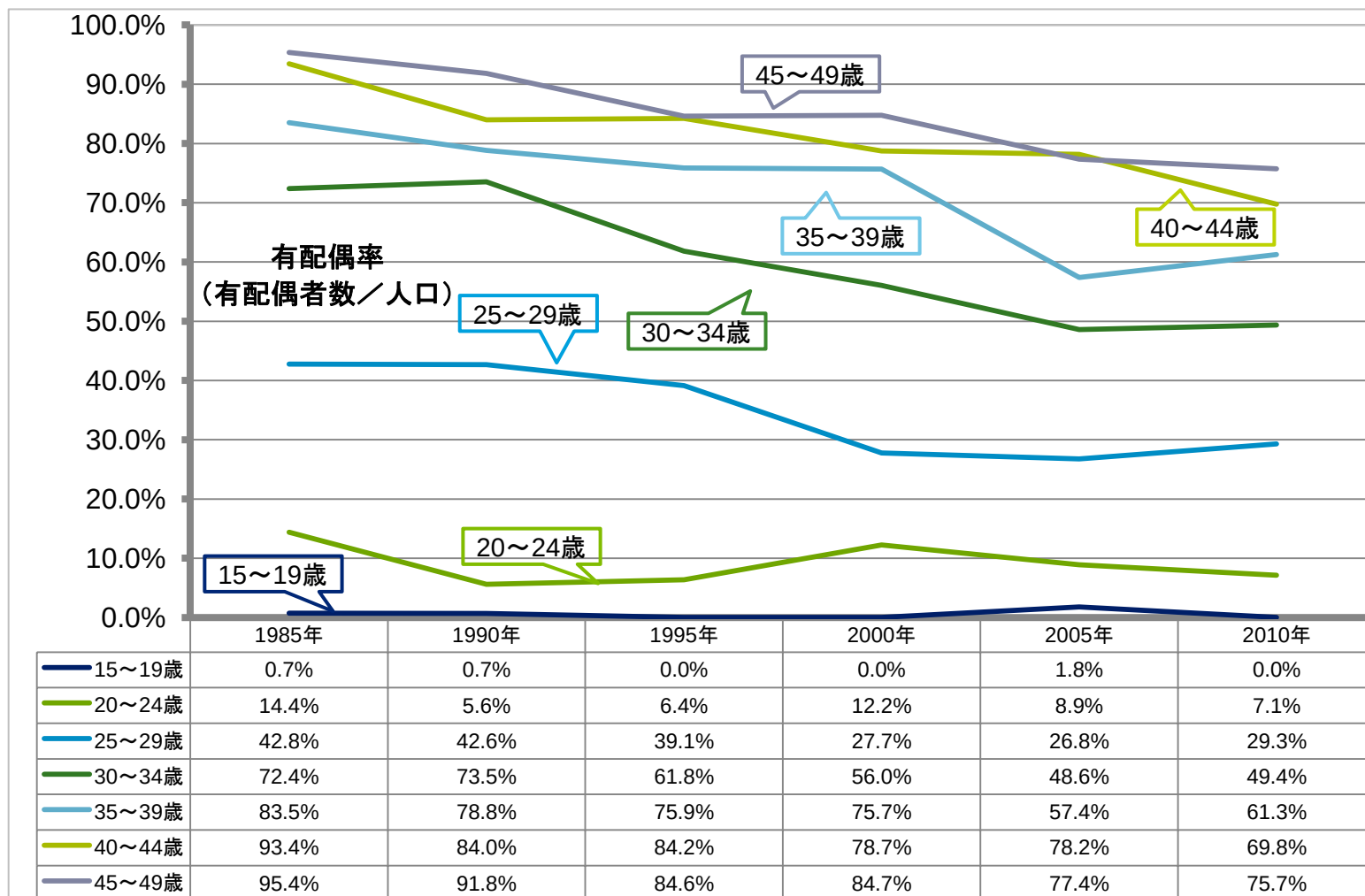


直近5年間で、
合計特殊出生率
が上がったのは
なぜか？

出所: 人口動態調査(1983～2012年)

1985年と2010年とを比較してみると、全体的に男性有配偶率は低下していますが、特に30～49歳の有配偶率の低下は著しいです

年齢階級別男性有配偶率の推移



なぜ有配偶率は低下したのか？

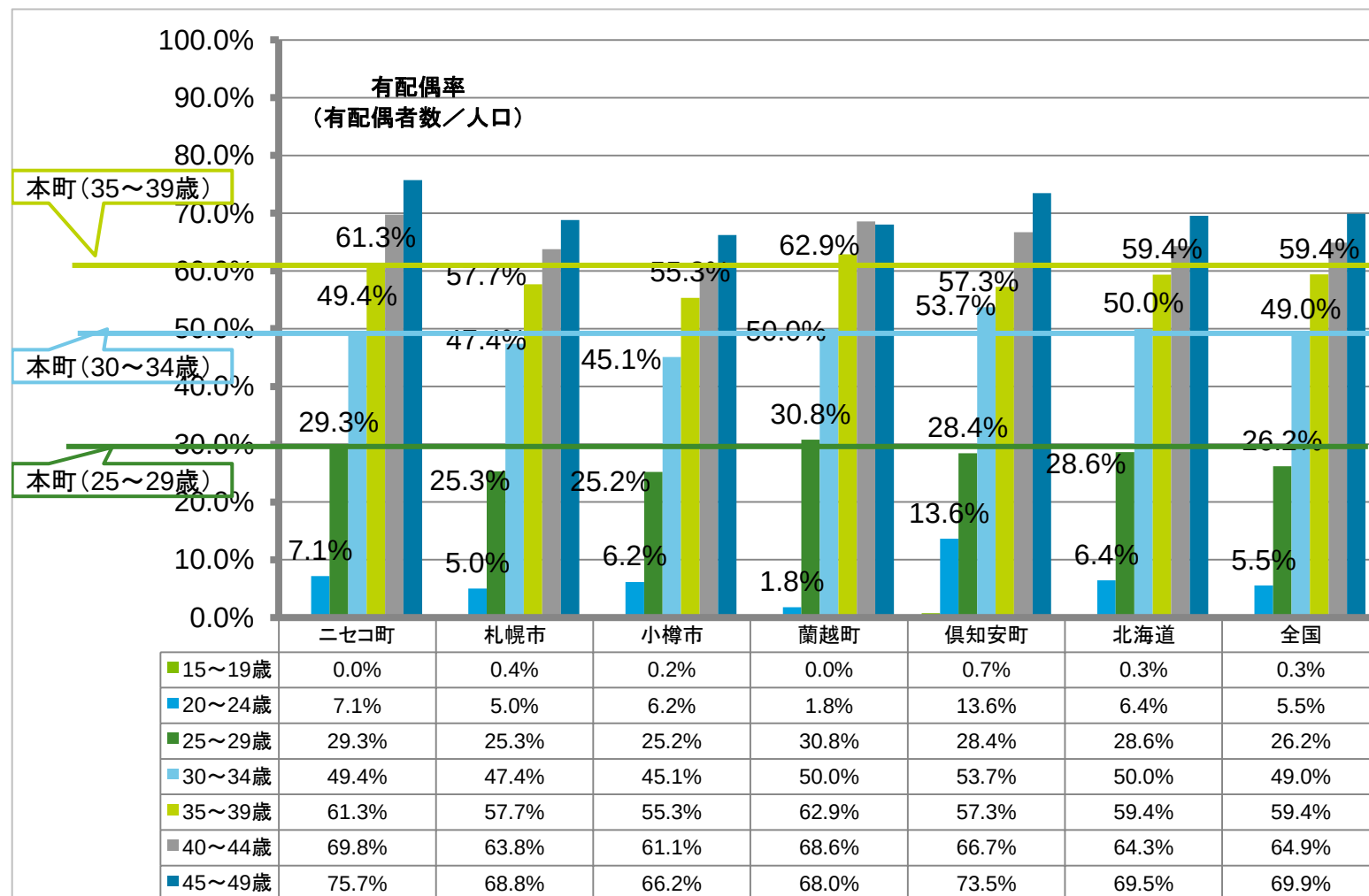
ニセコ町ならではの理由はあるか？

必要なのは安定した収入？
婚活イベント？

出所：国勢調査（1985年～2010年）

本町の男性有配偶率は、25～39歳で、全国・北海道水準よりも高くなっています

年齢階級別男性有配偶率の比較

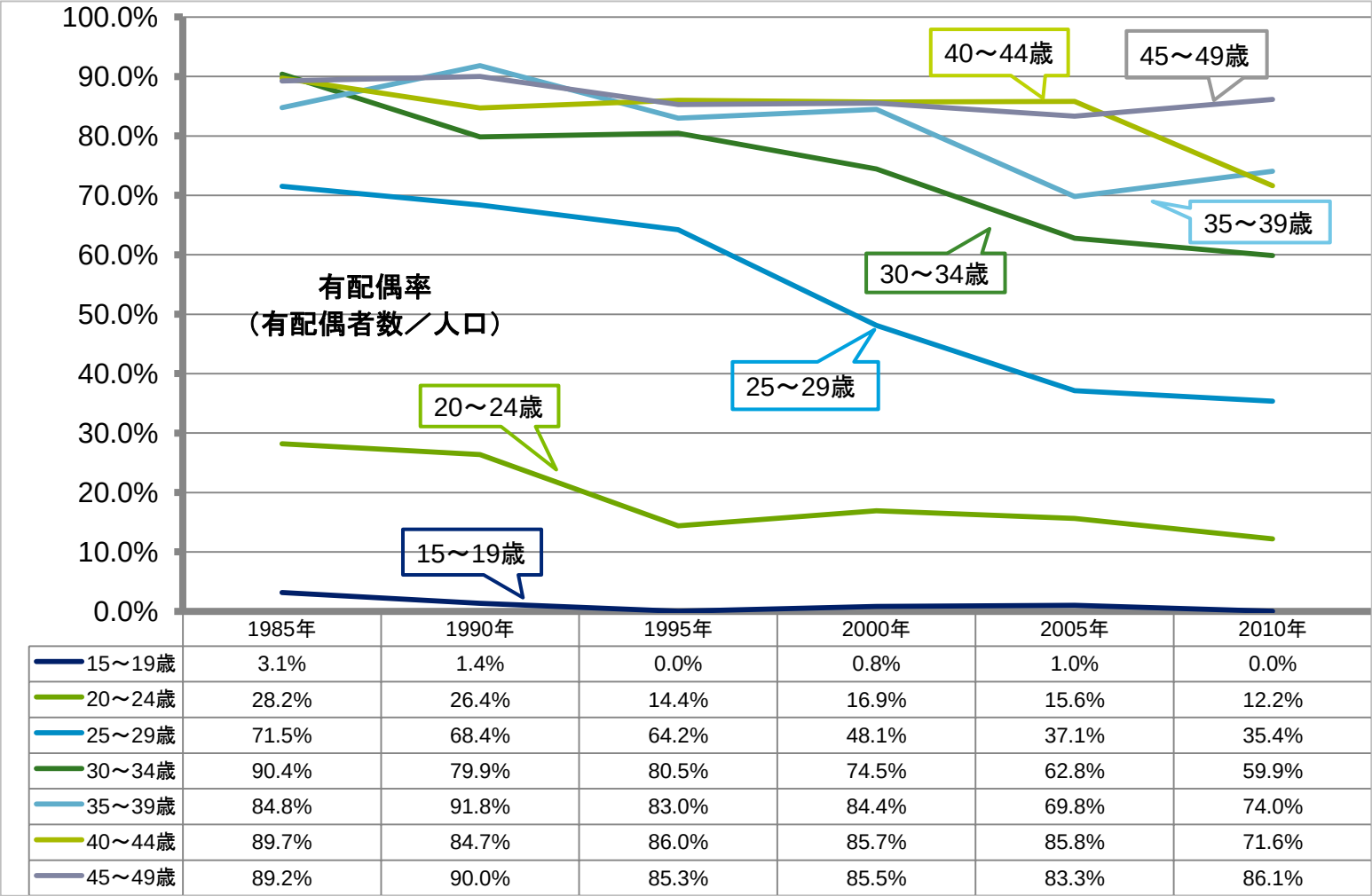


- 25～29歳、35～39歳では、蘭越町を除いて、他より高くなっています
- 30～34歳では、全国、札幌市よりは高い水準にありますが、蘭越町、倶知安町水準よりは低くなっています

出所：国勢調査(1985年～2010年)

1985年と2010年とを比較してみると、全体的に女性有配偶率は低下していますが、特に25～34歳は30%以上も減少しています

年齢階級別女性有配偶率の推移

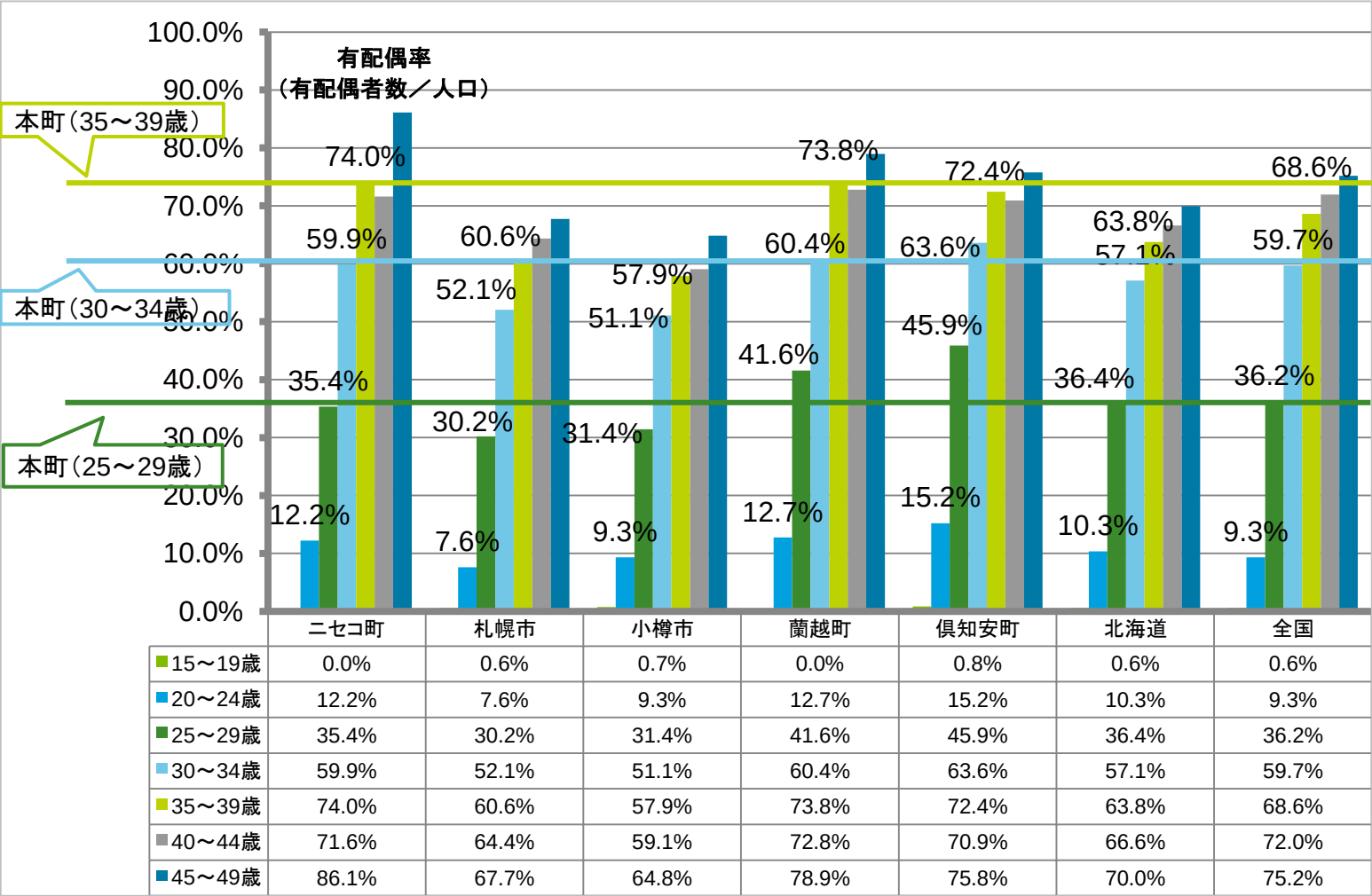


- 女性の有配偶率は、1985年と2010年を比較すると、すべての年齢層で低下しています
- 1985年と2010年を比較すると、20～24歳で約15%、25～29歳で約35%、30～34歳で約30%低下しており、若い女性の有配偶率の低下が著しいです

出所: 国勢調査(1985年～2010年)

本町の女性有配偶率は、特に35～39歳で、全国・北海道・道内他市町村水準よりも高くなっています

年齢階級別女性有配偶率の比較

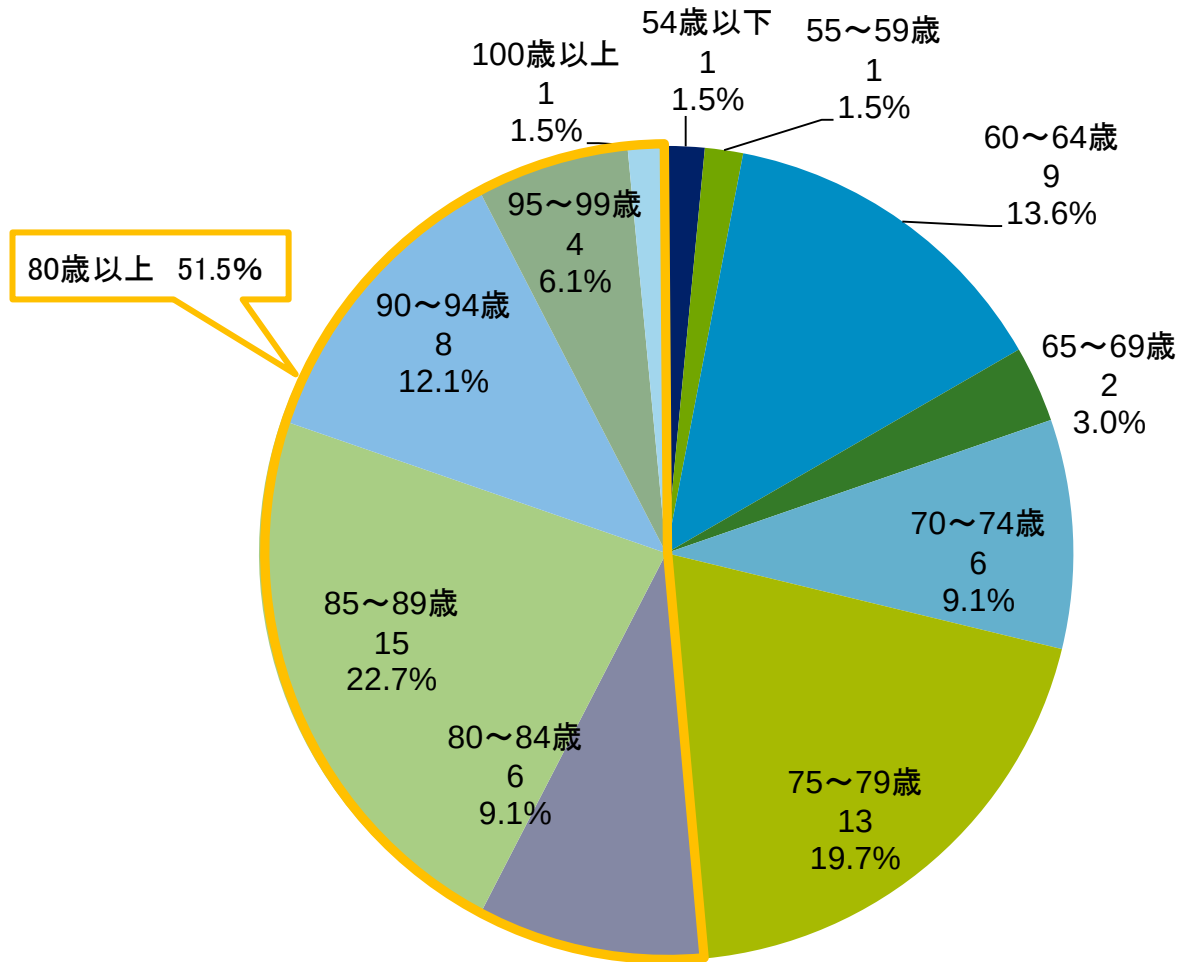


- 25～29歳では、札幌市、小樽市よりは高い水準にありますが、全国、北海道水準よりは低くなっています
- 30～34歳では、全国、北海道水準よりは高い水準にありますが、蘭越町、倶知安町水準よりは低くなっています

出所: 国勢調査(2010年)

死亡者数は、80歳以上で全体の約半分を占めており、54歳以下の割合は1.5%となっています

年齢別死亡者数

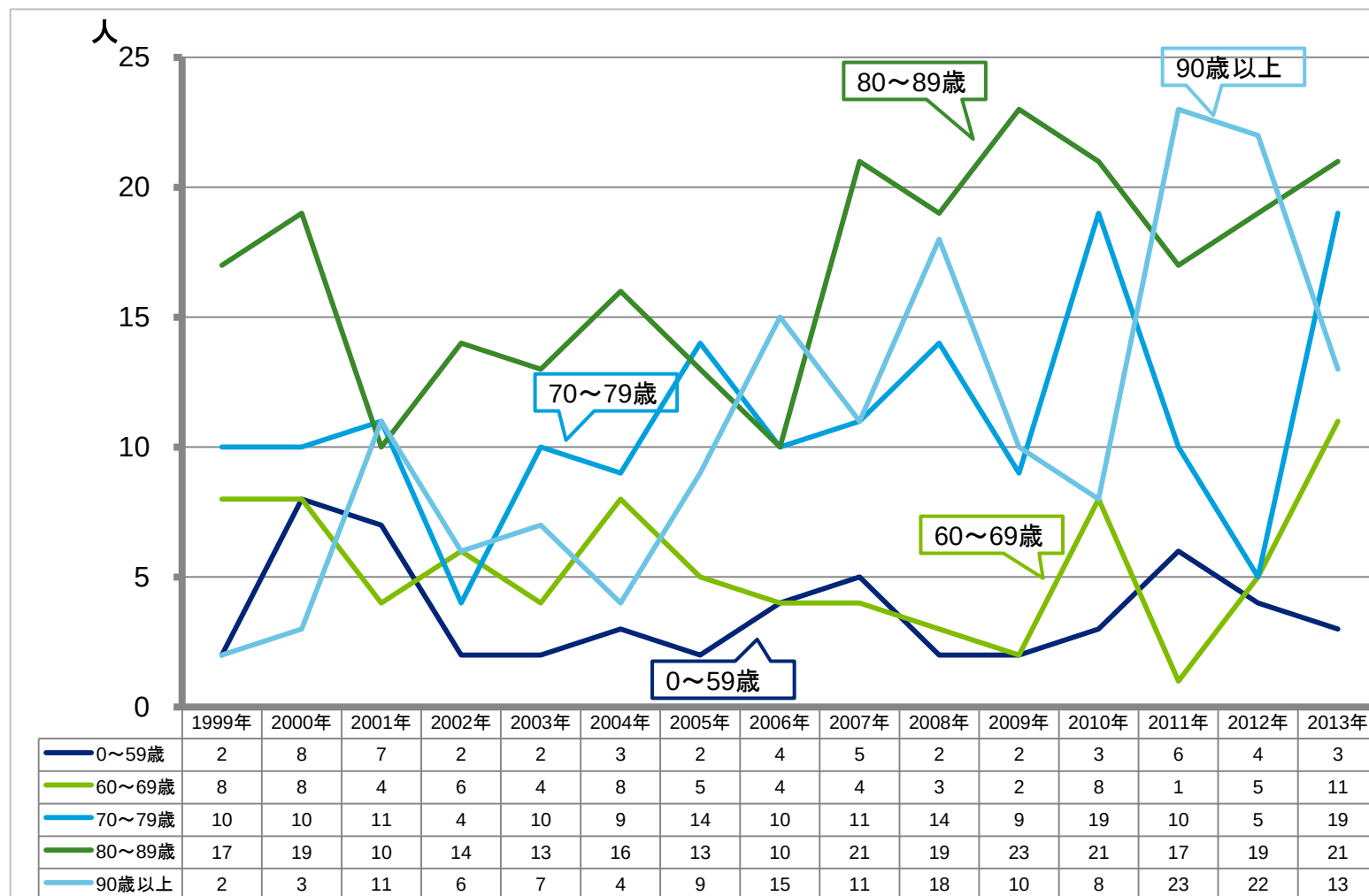


自然減の中、死亡者数について何か対策すべきことはあるか？

医療？
高齢者福祉？
生涯活躍のまち
「日本版CCR
C」？

59歳以下の死亡者数は横ばいで推移しており、60歳以上の死亡者数は増減はあるものの、増加しています

年齢別死亡者数の推移



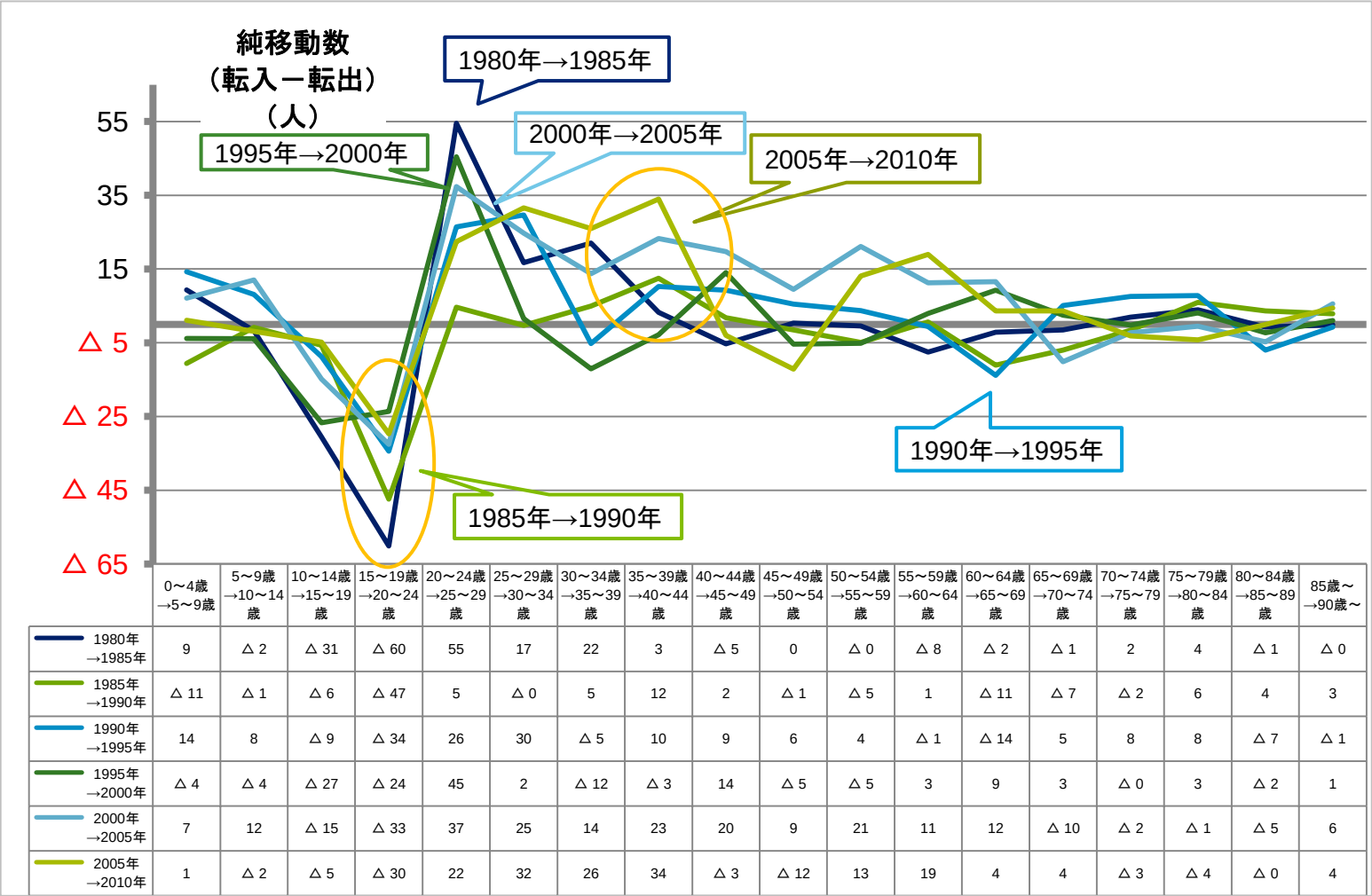
- 0~59歳の死亡者数は、近年横ばい傾向にあります
- 60歳以上の死亡者数は増減が激しくなっているものの、高齢化に伴い特に90歳以上では死亡者数が増加しています

出所: 人口動態調査(1999年~2013年)

2. ニセコ町の人口分析結果（速報版） （3）人口の社会増減

2000年から2005年にかけて人口移動の傾向に変化が見られ、特に男性の30～44歳で純移動数の増加幅が大きくなっています

年齢階級別人口移動の状況の長期的動向(男性)

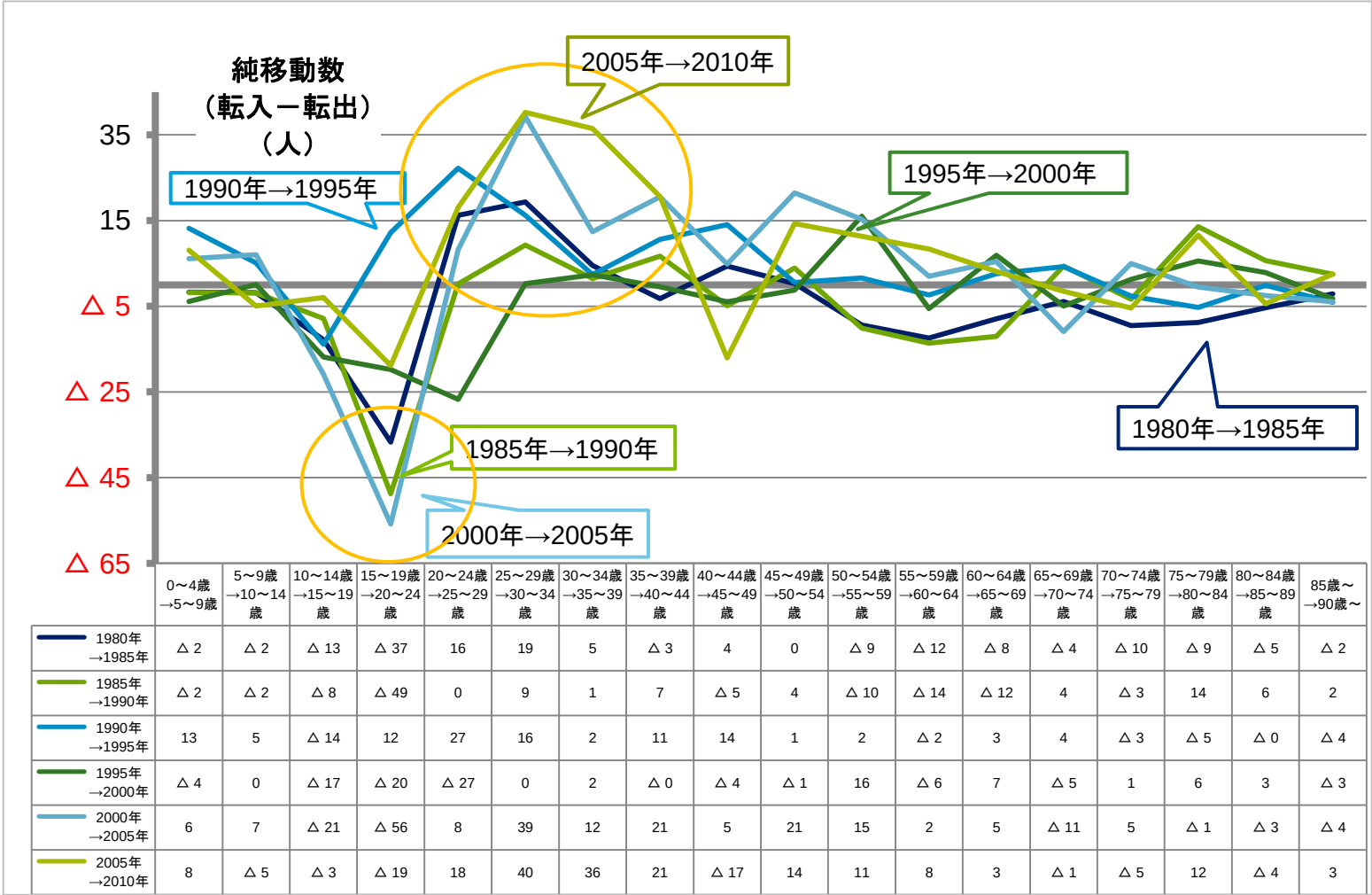


- 15～19歳では、1980年から1985年の5年間では31人減少していましたが、2005年から2010年の5年間では5人減と減少幅が小さくなっています
- 30～34歳と35～39歳では1995年以降、純移動数の増加幅が大きくなっています

出所: 国提供ファイル(国勢調査人口を基に推計)

2005年から2010年にかけて人口移動の傾向に変化が見られ、女性の0～9歳、20～44歳、50～69歳で純移動数がプラスになっています

年齢階級別人口移動の状況の長期的動向(女性)

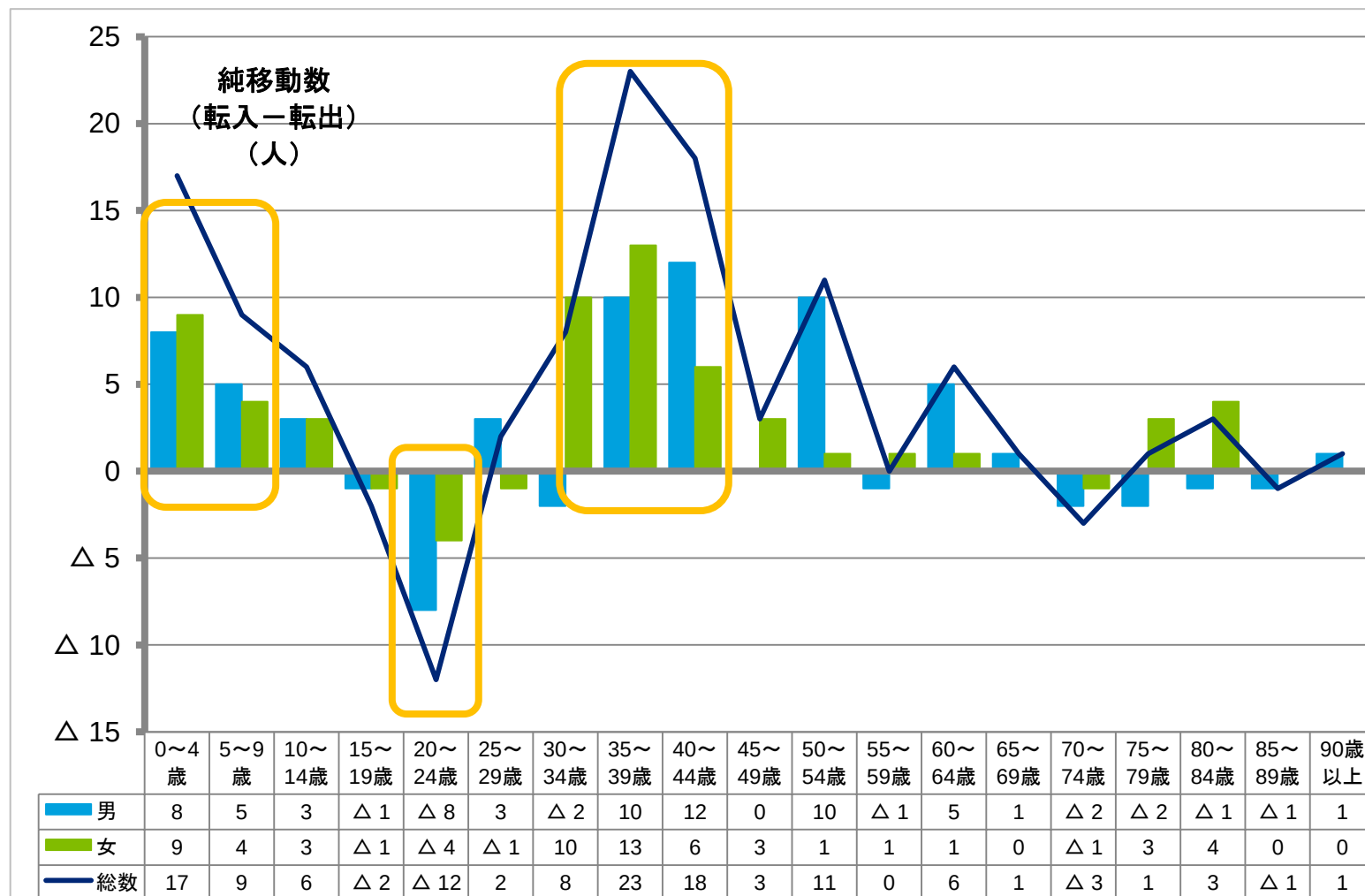


- 15～19歳では、2000年から2005年の5年間では56人減少していましたが、2005年から2010年の5年間では19人減と減少幅が小さくなっています
- 30～34歳では1980年以降、純移動数がプラスで推移しており、近年増加幅が大きくなっています

出所: 国提供ファイル(国勢調査人口を基に推計)

10歳未満や30～44歳の転入が多い一方で、20～24歳の転出が多くなっています

年齢区分別、男女別純移動者数



子育て世代が流入しているのはなぜか？

日本人？
外国人？

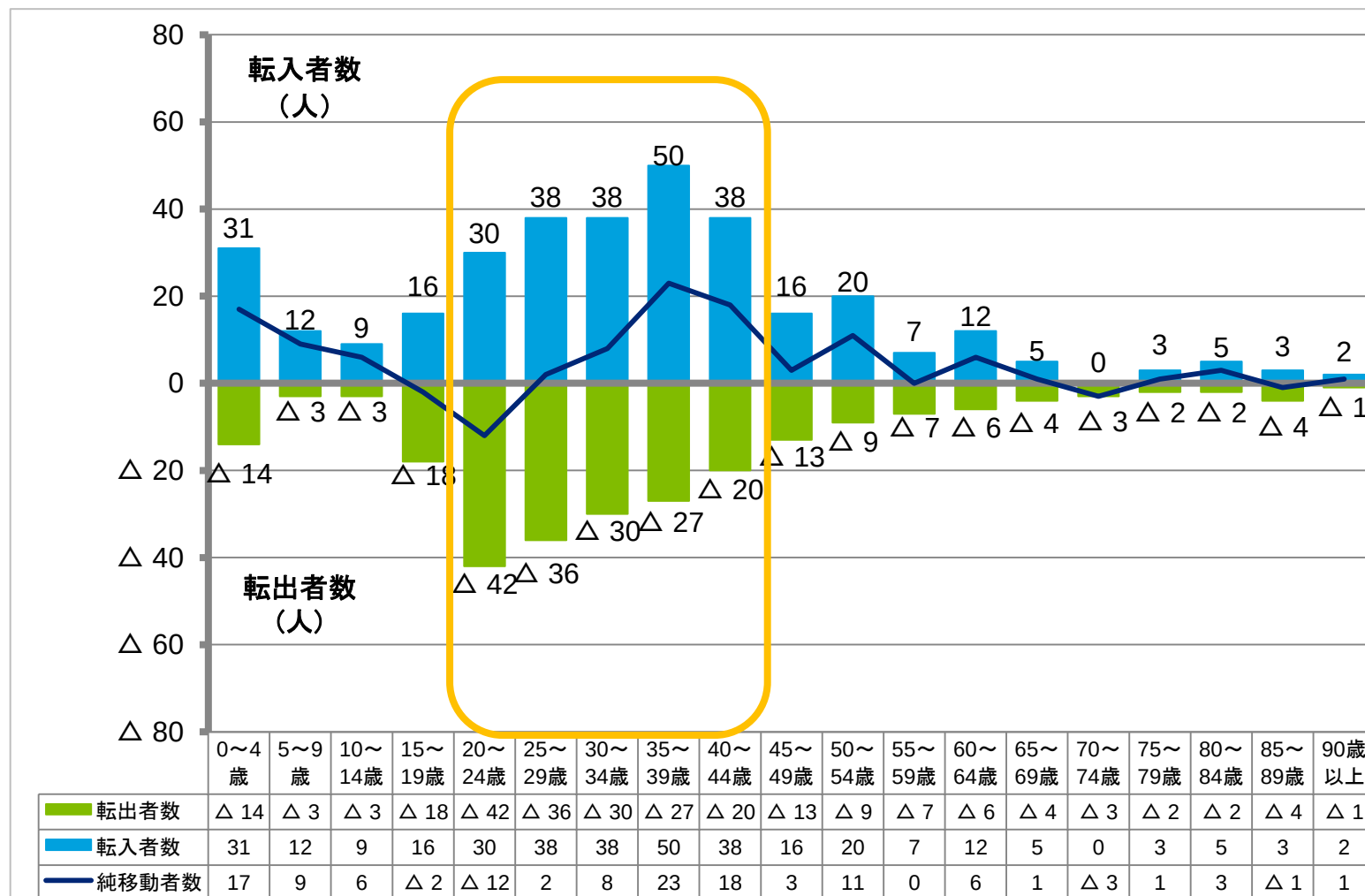
20代が流出するのはやむを得ない？

高齢者の転出が意外と少ない？
(除雪、買い物は？)

出所：住民基本台帳移動報告(2014年)

年齢区分別の住民移動を見ると、20～30代の移動(転入・転出)が多くなっています

年齢区分別、転入・転出者数



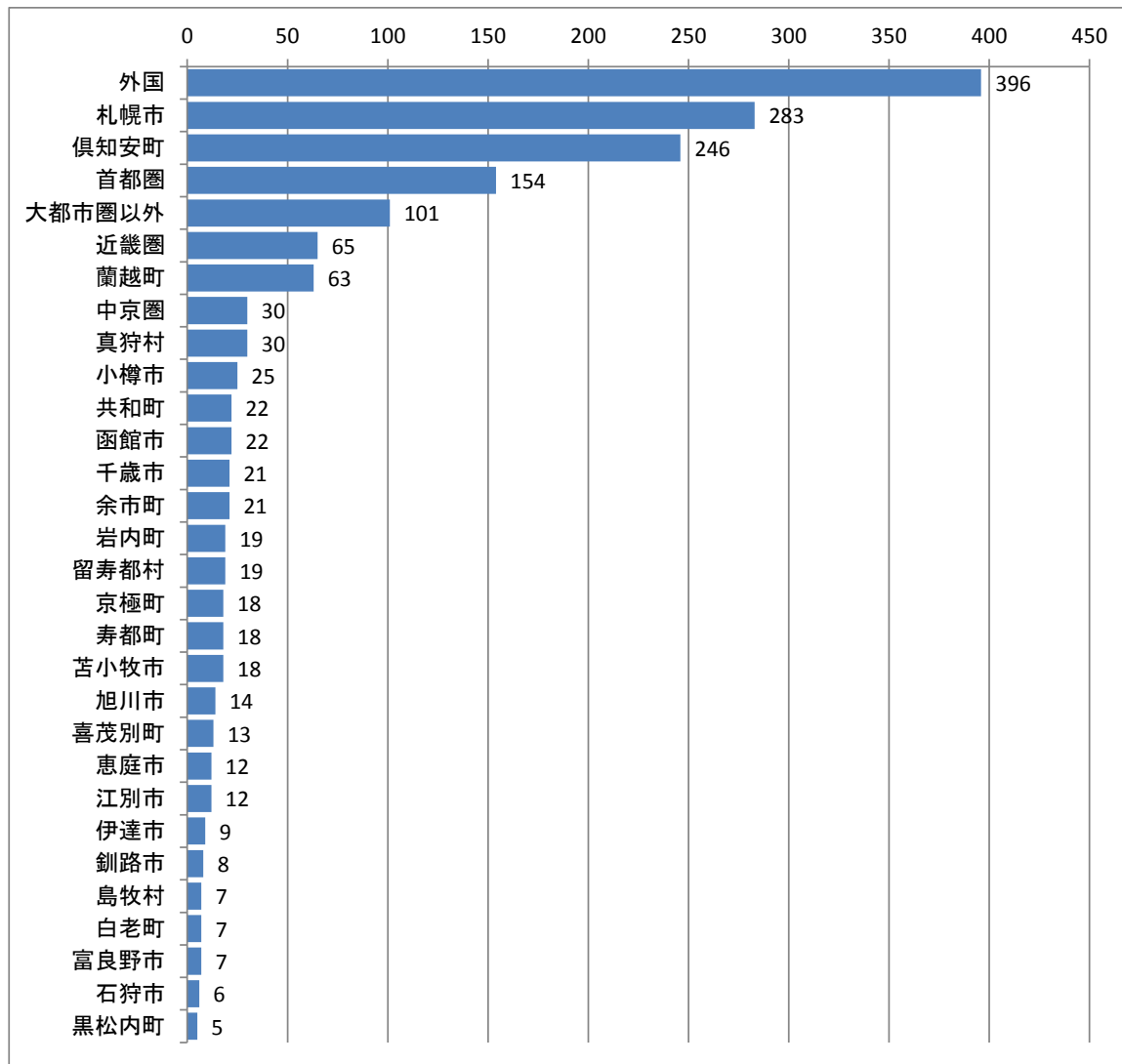
転入超過だが
転出者も多い。
二セコ町の人口
増加も、いつか
勢いが弱まるお
それはないか？

1年分だけで傾
向はつかめてい
るのか？

出所：住民基本台帳移動報告(2014年)

転入元で多いのは、国外、道外、札幌市、倶知安町です

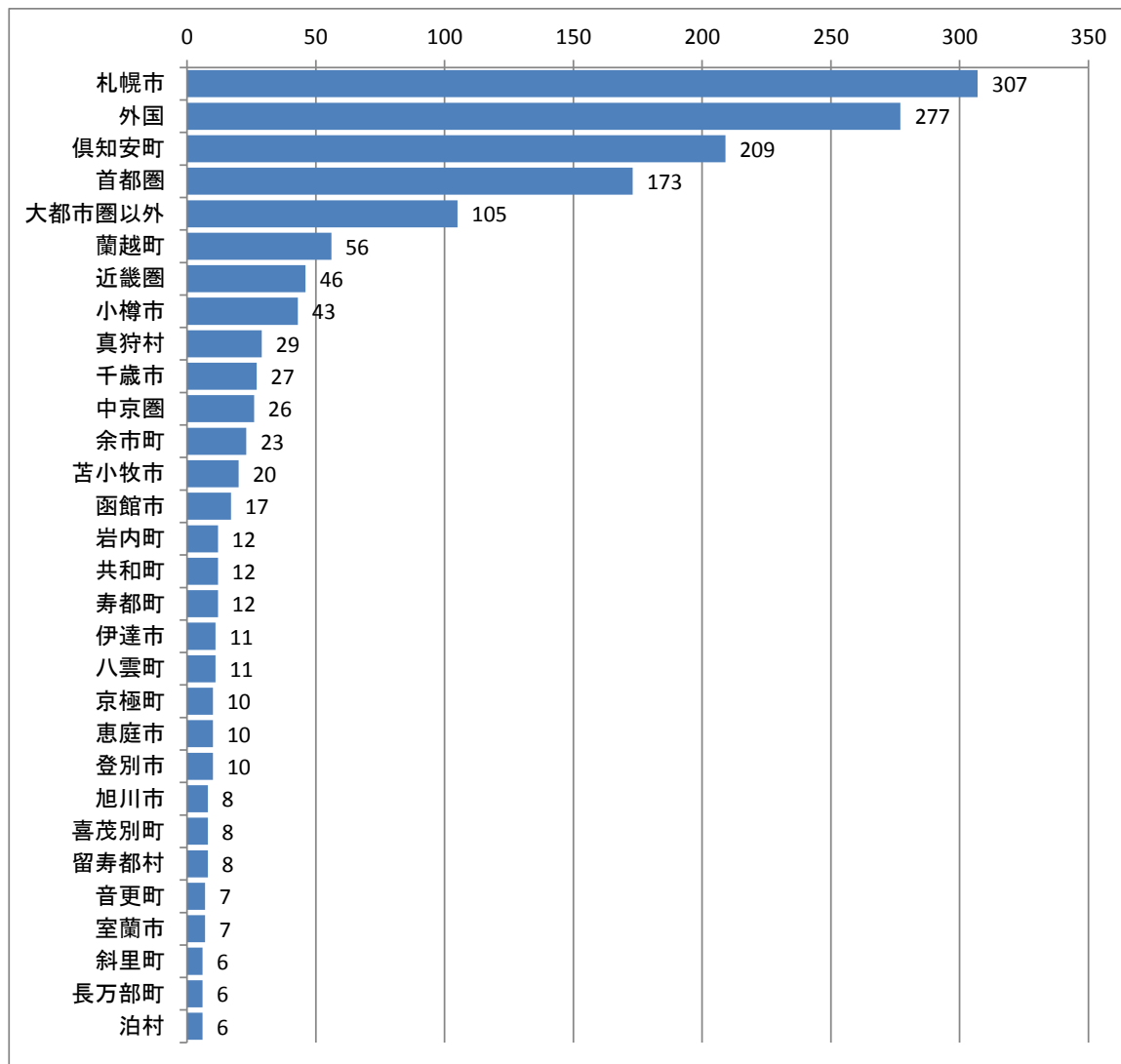
転入元（個人、平成21年度～25年度の5年間合計、住基台帳）



転入数	
国 外	396人
道 外	350人
(首都圏)	154人
札幌市	283人
倶知安町	246人

転出先で多いのは、道外、札幌市、国外、倶知安町です

転出先（個人、平成21年度～25年度の5年間合計、住基台帳）



	転出数	増減
国 外	277人	+119人
道 外	350人	±0人
(首都圏)	173人	▲19人
札幌市	307人	▲24人
倶知安町	209人	+37人

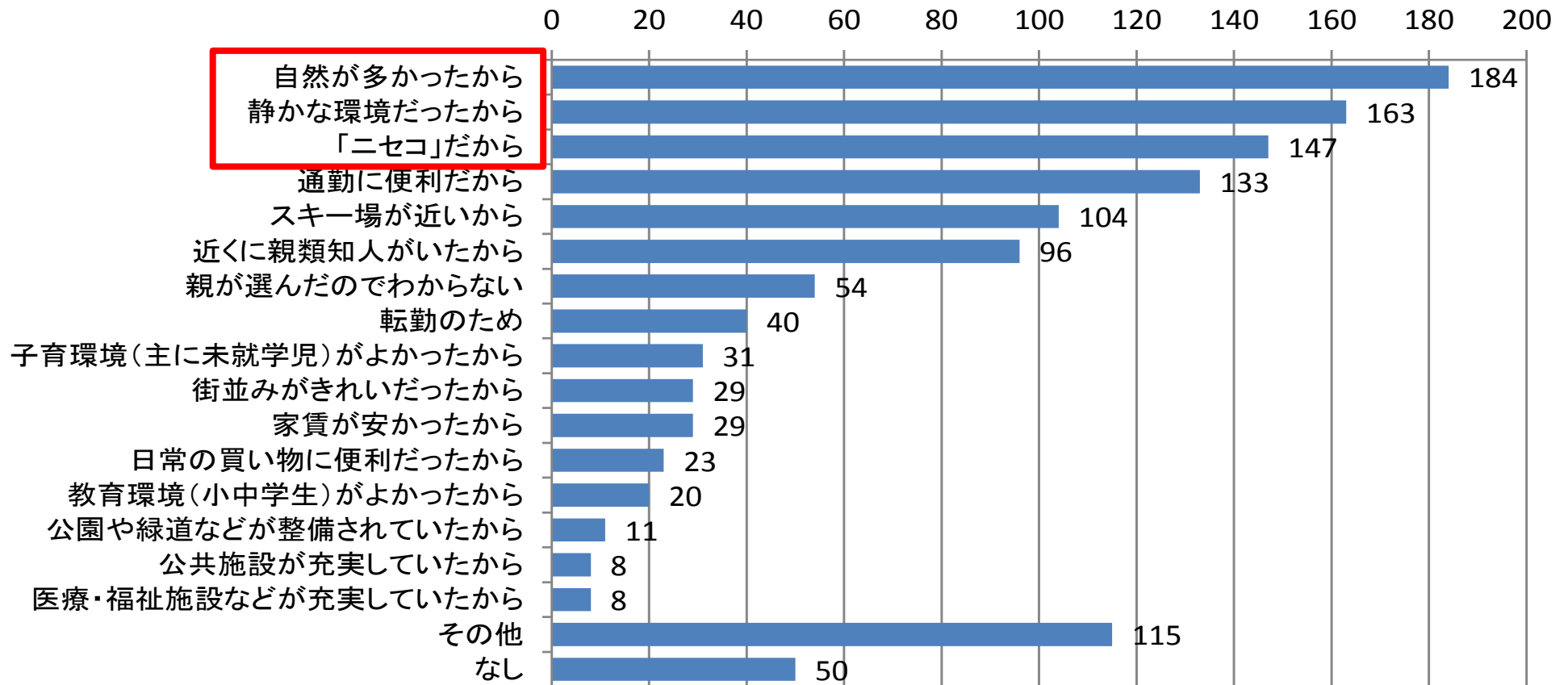
転入超過：倶知安町、海外
→ニセコブランド？

転出超過：首都圏、札幌市
→転出理由は何か？
対策の重点地域？

外国人の収支が合わない？

ニセコ町の居住者は「豊かな自然環境」や「ブランド力(ニセコだから)」に惹かれています

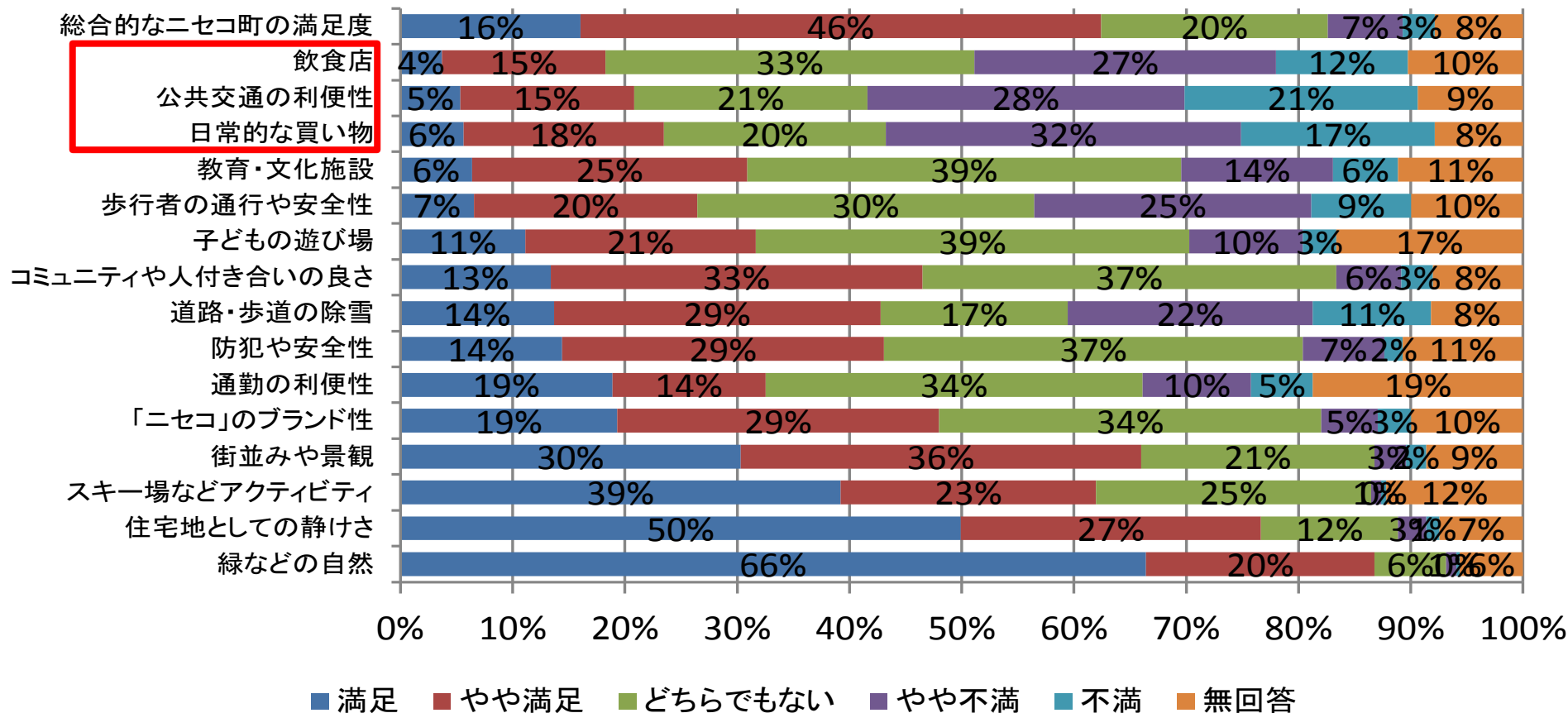
ニセコ町を選んだ理由（複数回答、アンケート）



「ニセコだから」を構成する要素は何か？
(ニセコブランド)

ニセコ町の居住者の満足度が特に低いのは、「飲食店」「買い物」「公共交通」です

ニセコ町に居住しての満足度（アンケート）

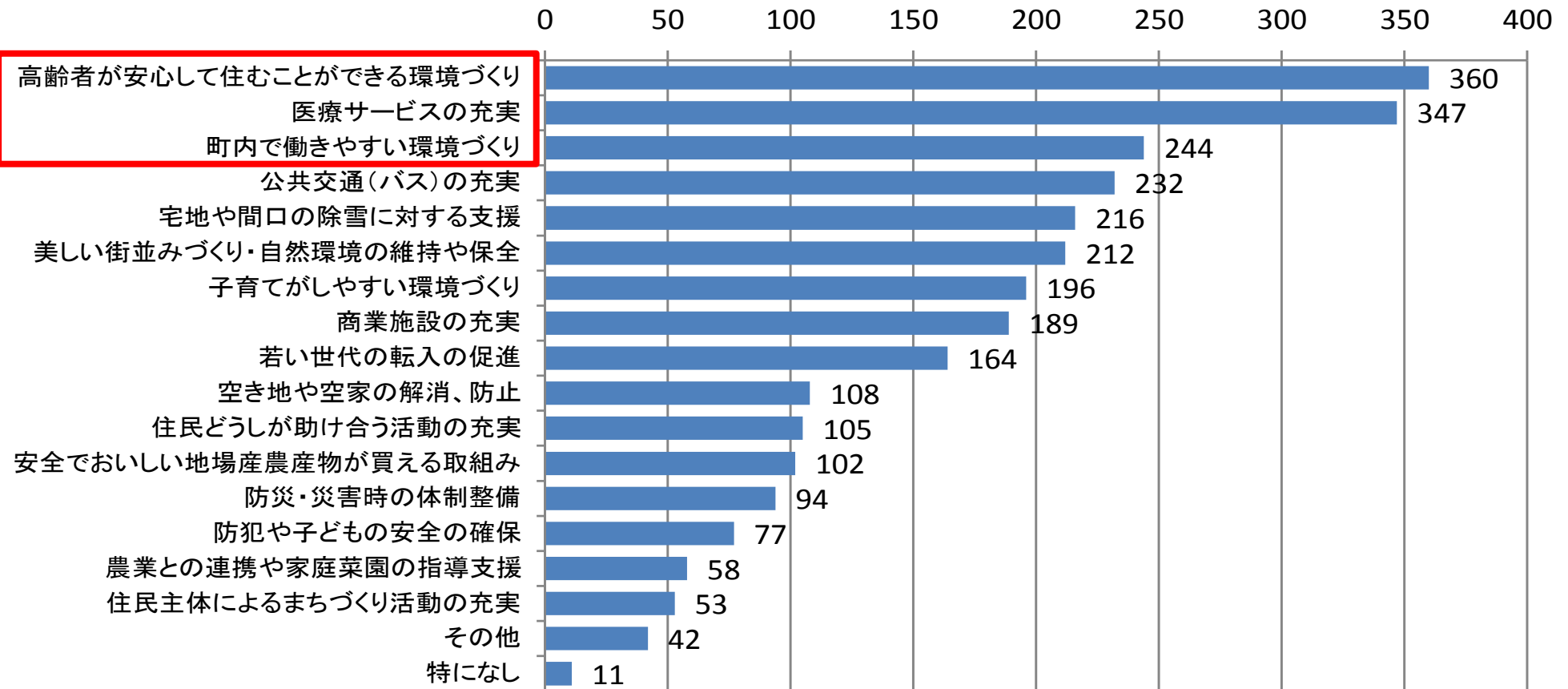


出所：ニセコ町「戦略的住まい・まちづくり」政策検討会議 平成26年度中間報告書（平成27年3月）

お店は広域的に確保できているとも言えないのか？

ニセコ町の居住者が将来必要と考えているのは、「高齢者」「医療サービス」「働きやすさ」対策です

将来必要だと思う取組み（複数回答、アンケート）



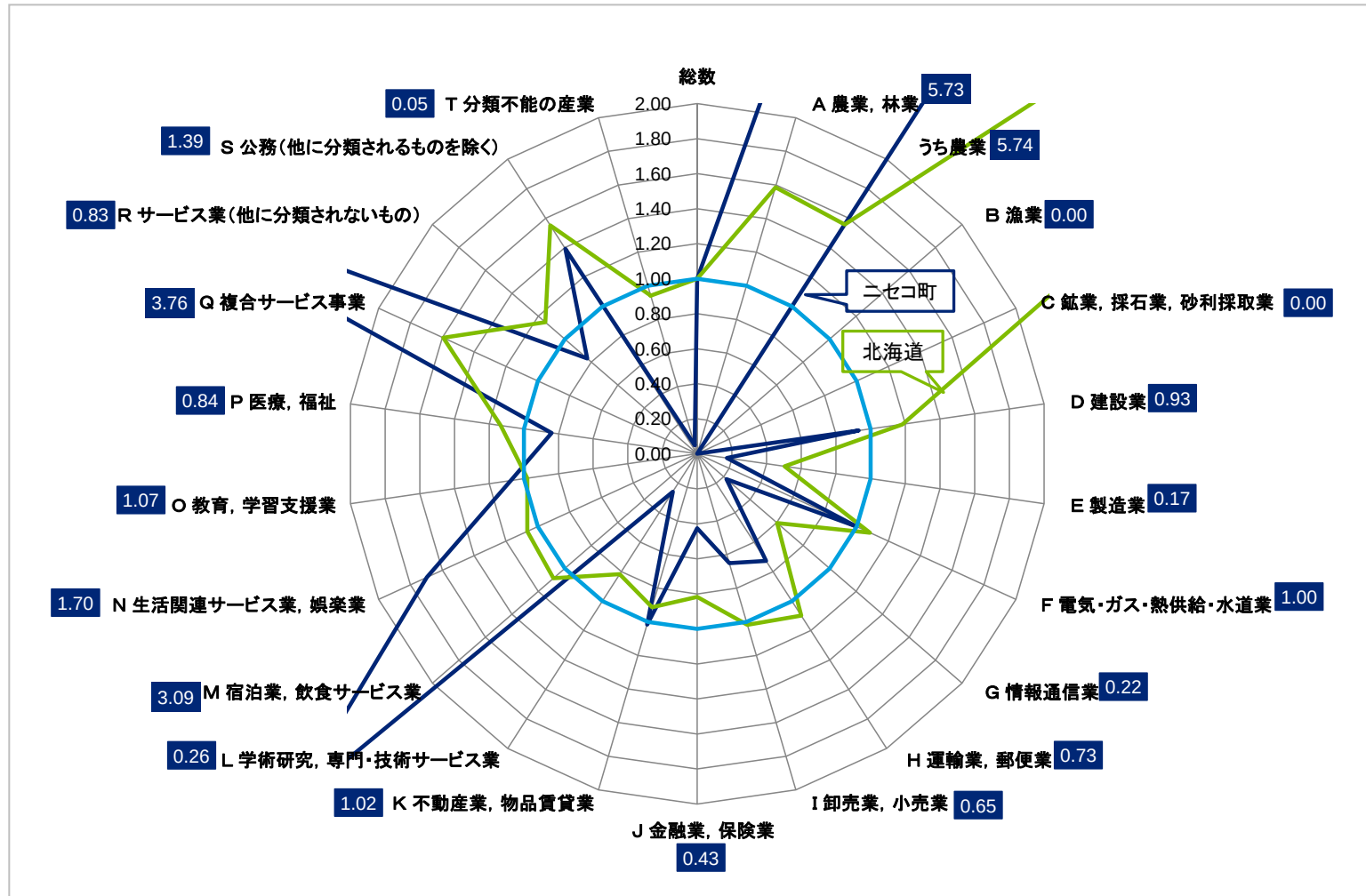
出所：ニセコ町「戦略的住まい・まちづくり」政策検討会議 平成26年度中間報告書（平成27年3月）

アンケート回答者が高齢者に偏っていないか？

2. ニセコ町の人口分析結果（速報版） （4）就業・雇用等

産業別就業人口は「農業,林業」「複合サービス事業」「宿泊業,飲食サービス業」が高くなっています

産業別就業人口の比較 特化係数分布図(総数)



■「農業,林業」「複合サービス業」「宿泊業,飲食サービス業」の順に特化係数は高くなっています

■「農業,林業」の特化係数は、5.73です

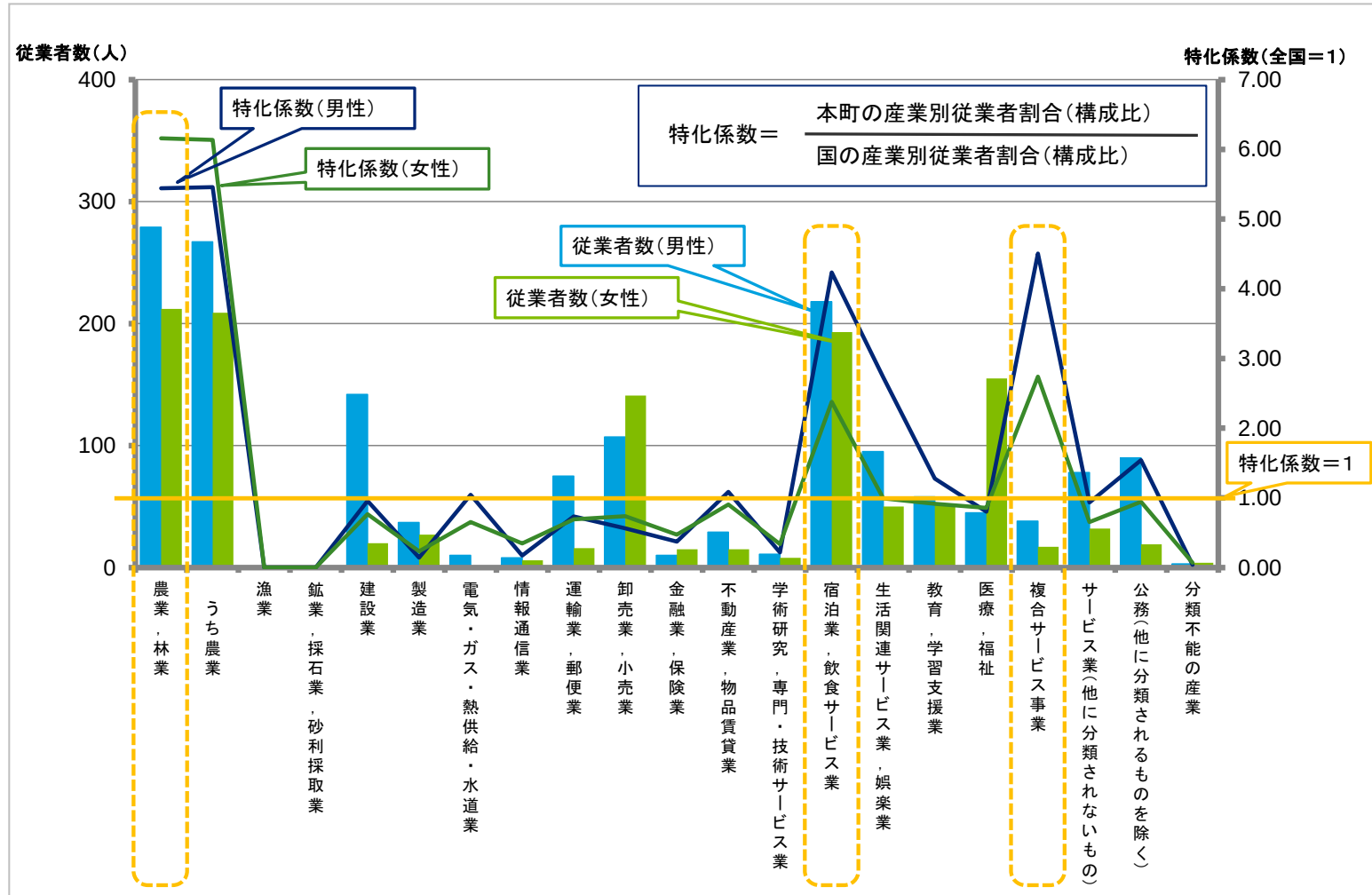
■「複合サービス業」の特化係数は、3.76です

■「宿泊業,飲食サービス業」の特化係数は、3.09です

「複合サービス事業」は具体的にどこのこと？

従業者数は、男女とも、「農業,林業」「宿泊業,飲食サービス業」が多く、男性は「建設業」、女性は「医療, 福祉」「卸売業, 小売業」で多いです

男女別従事者数、特化係数



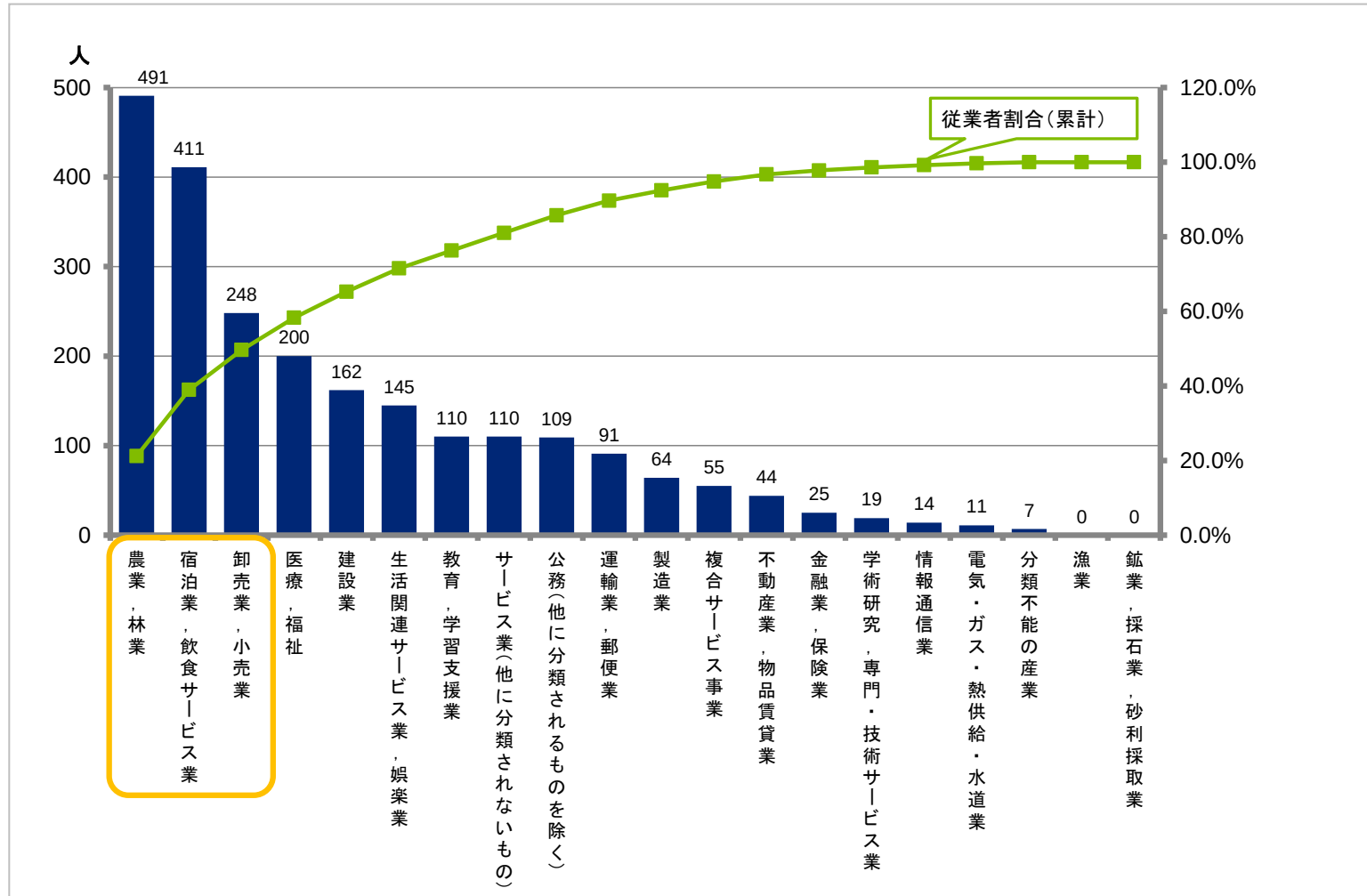
- 「農業,林業」「宿泊業, 飲食サービス業」の特化係数は全国水準を大きく上回るとともに、従業者数も多くなっています
- 「複合サービス業」の特化係数は全国水準を大きく上回っていますが、従業者数は小さくなっています
- 一方で、「漁業」「鉱業、採石業、砂利採取業」は全国水準を大きく下回っています

「農業」と「観光業」の町

出所：国勢調査(2010年)

産業別従事者数は、「農業,林業」の従事者が最も多く、「農林, 林業」、「宿泊業, 飲食サービス業」、「卸売業, 小売業」で全体の49.7%を占めています

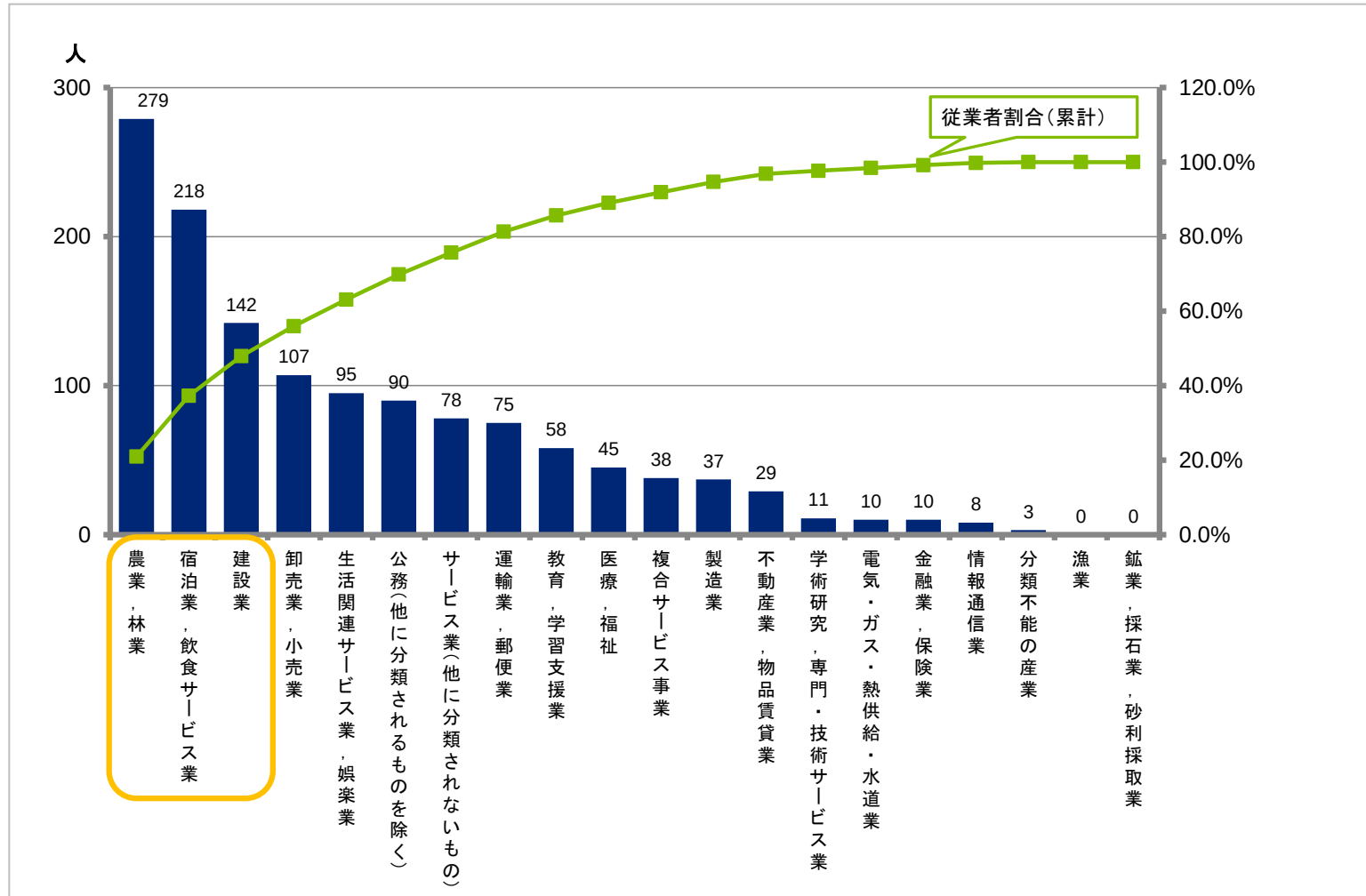
産業別従業者数(総数)



- 産業別従事者数は、農業・林業、宿泊業・飲食サービス業、卸売業・小売業の順に多くなっています
- 農業・林業の従事者数は、491人です
- 宿泊業・飲食サービス業の従事者数、は411人です
- 卸売業・小売業の従事者数は、248人です

男性の産業別従事者数は、「農林、林業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「建設業」で全体の47.9%を占めています

産業別従業者数(男性)

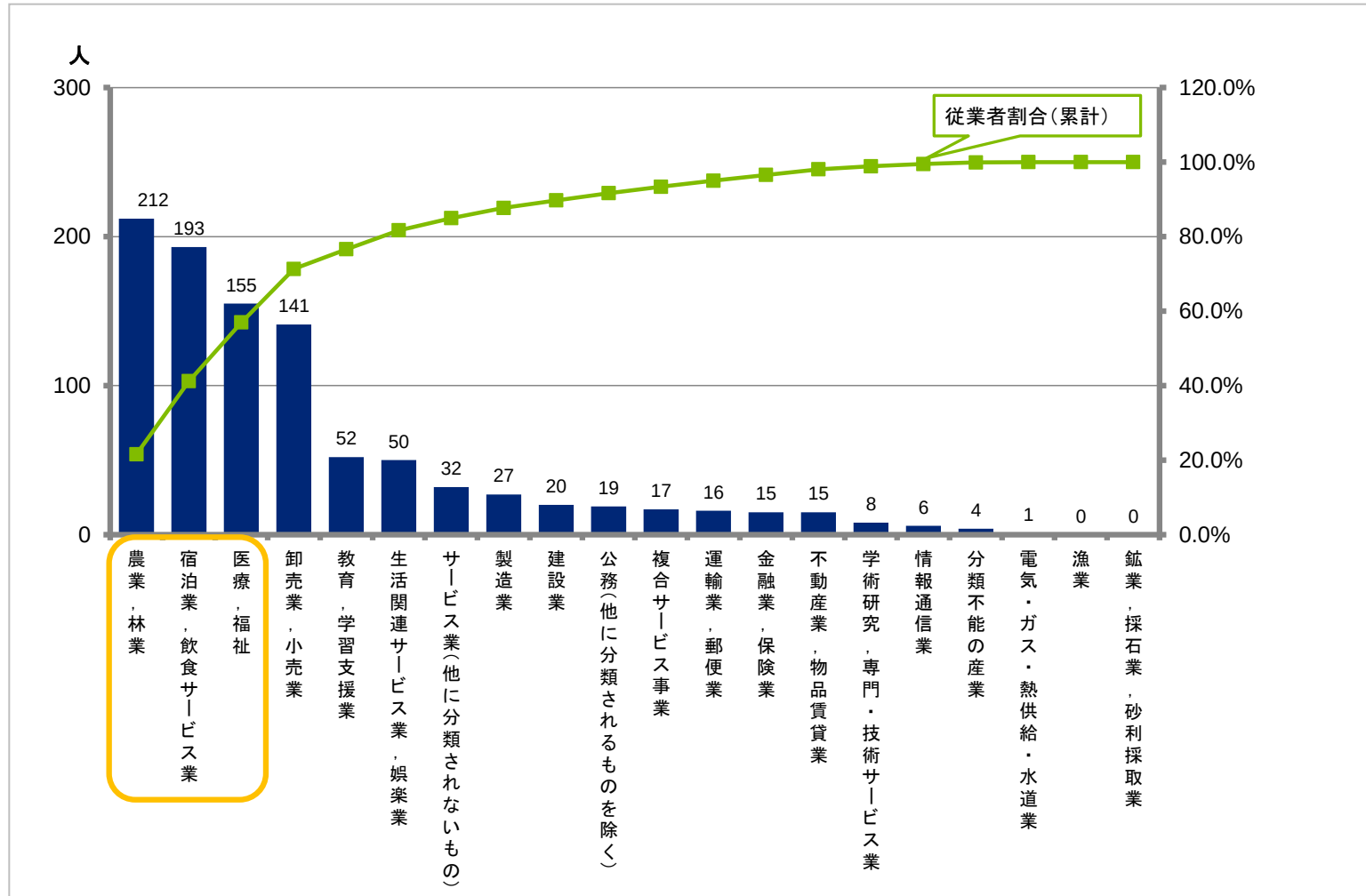


- 男性の産業別従事者数は、農業・林業、宿泊業・飲食サービス業、建設業の順に多くなっています
- 農業・林業の従事者数は、279人です
- 宿泊業・飲食サービス業の従事者数は、281人です
- 建設業の従事者数は、142人です

出所: 国勢調査(2010年)

女性の産業別従事者数は、「農業・林業」、「宿泊業・飲食サービス業」、「医療・福祉」で全体の57.0%を占めています

産業別従業者数(女性)

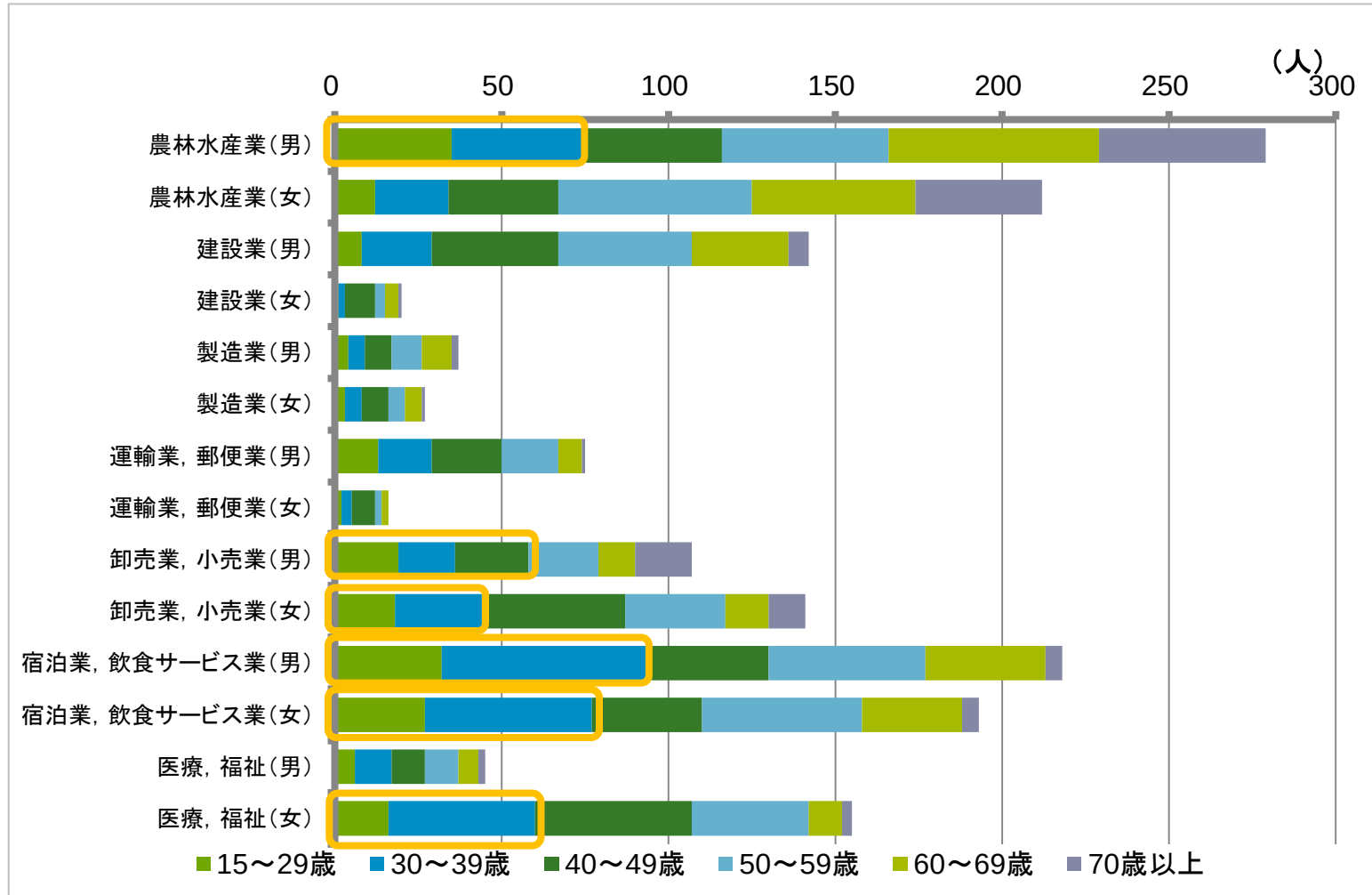


- 女性の産業別従事者数は、農業・林業、宿泊業・飲食サービス業、医療・福祉の順に多くなっています
- 農業・林業の従事者数は、212人です
- 宿泊業・飲食サービス業の従事者数は、193人です
- 医療・福祉の従事者は、155人です

「医療・福祉」は155人も！
具体的にどこのこと？
町内？町外？

39歳以下の男性は「宿泊業、飲食サービス業」、「農林水産業」の従業者が多く、39歳以下の女性では、「宿泊業、飲食サービス業」、「医療、福祉」の従業者が多いです

主な産業の男女別年齢別従業者数

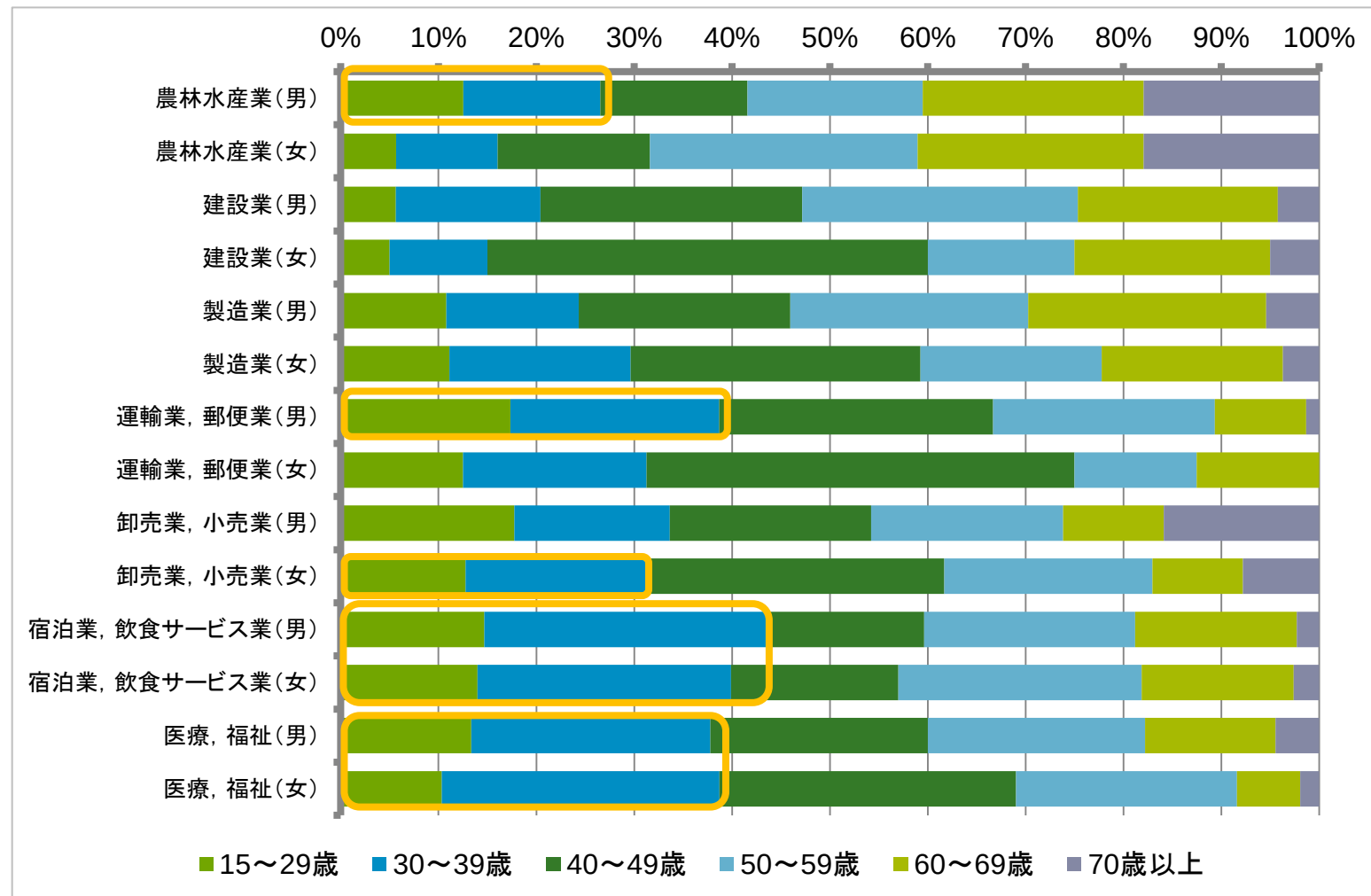


■ 39歳以下の男性では、「宿泊業、飲食サービス業」、「農林水産業」「卸売業、小売業」の順に多くなっています

■ 39歳以下の女性では、「宿泊業、飲食サービス業」、「医療福祉」「卸売業、小売業」の順に多くなっています

39歳以下では、男性女性従業員ともに「宿泊業，飲食サービス業」の割合が最も高くなっています

主な産業の男女別年齢別従業者割合



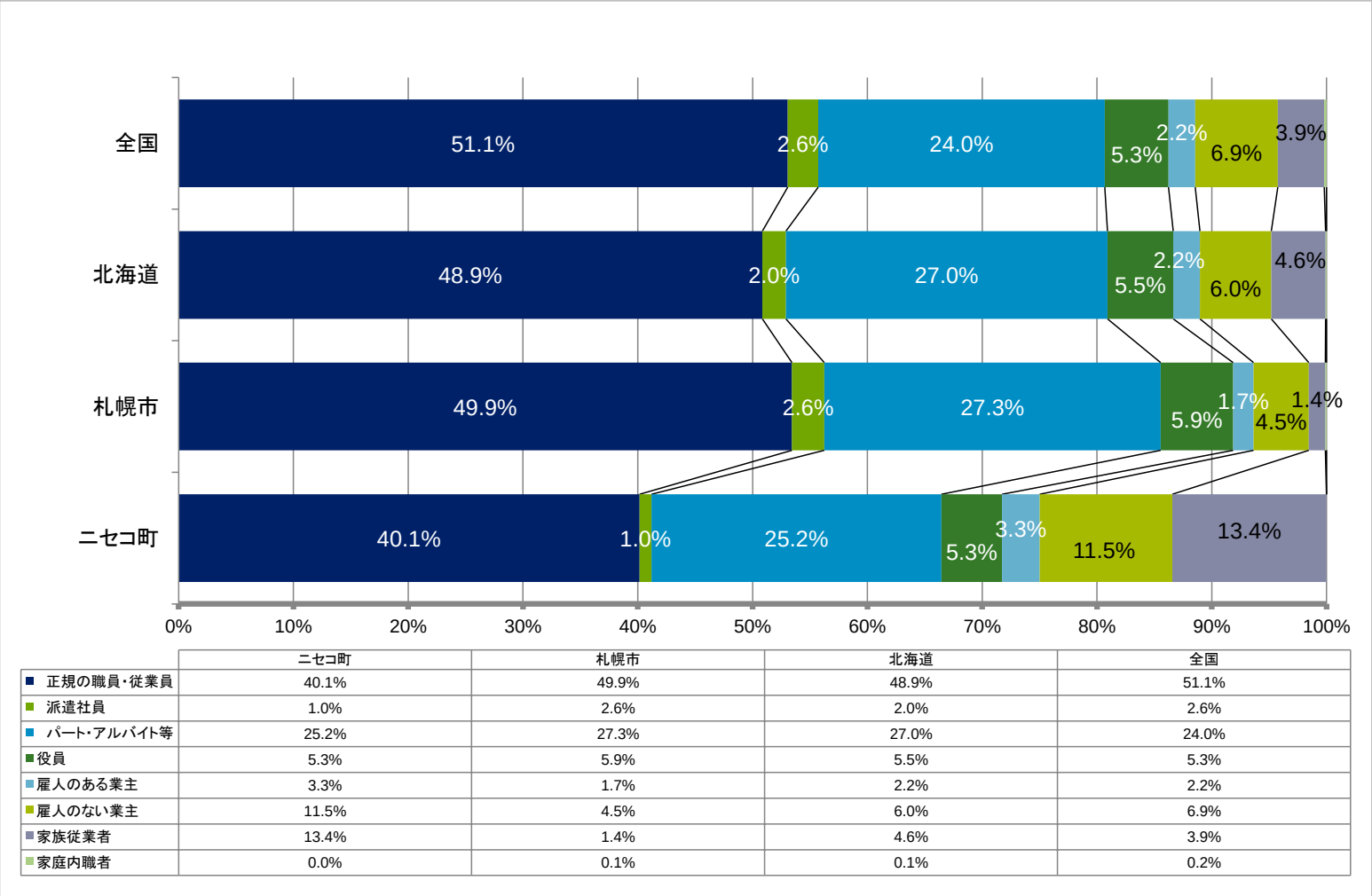
■ 各産業別に見た場合、39歳以下の男性の割合が高いのは「宿泊業，飲食サービス業」で、次いで「運輸業，郵便業」、「農林水産業」が高くなっています

■ 各産業別に見た場合、39歳以下の女性の割合が高いのは「宿泊業，飲食サービス業」で、次いで「医療，福祉」、「卸売業，小売業」が高くなっています

■ 一方で、男性女性ともに「建設業」の39歳以下の従業者数割合は低くなっています

本町の正規職員割合は、全国水準、北海道水準よりも下回っています

従業上の地位別従事者(総数)



- 正規職員割合は、全国水準を11.0%、北海道水準を8.8%下回っています
- 一方で、雇人のいない業主は4.6%、家族従業者は9.5%で、全国水準、北海道水準を上回っています

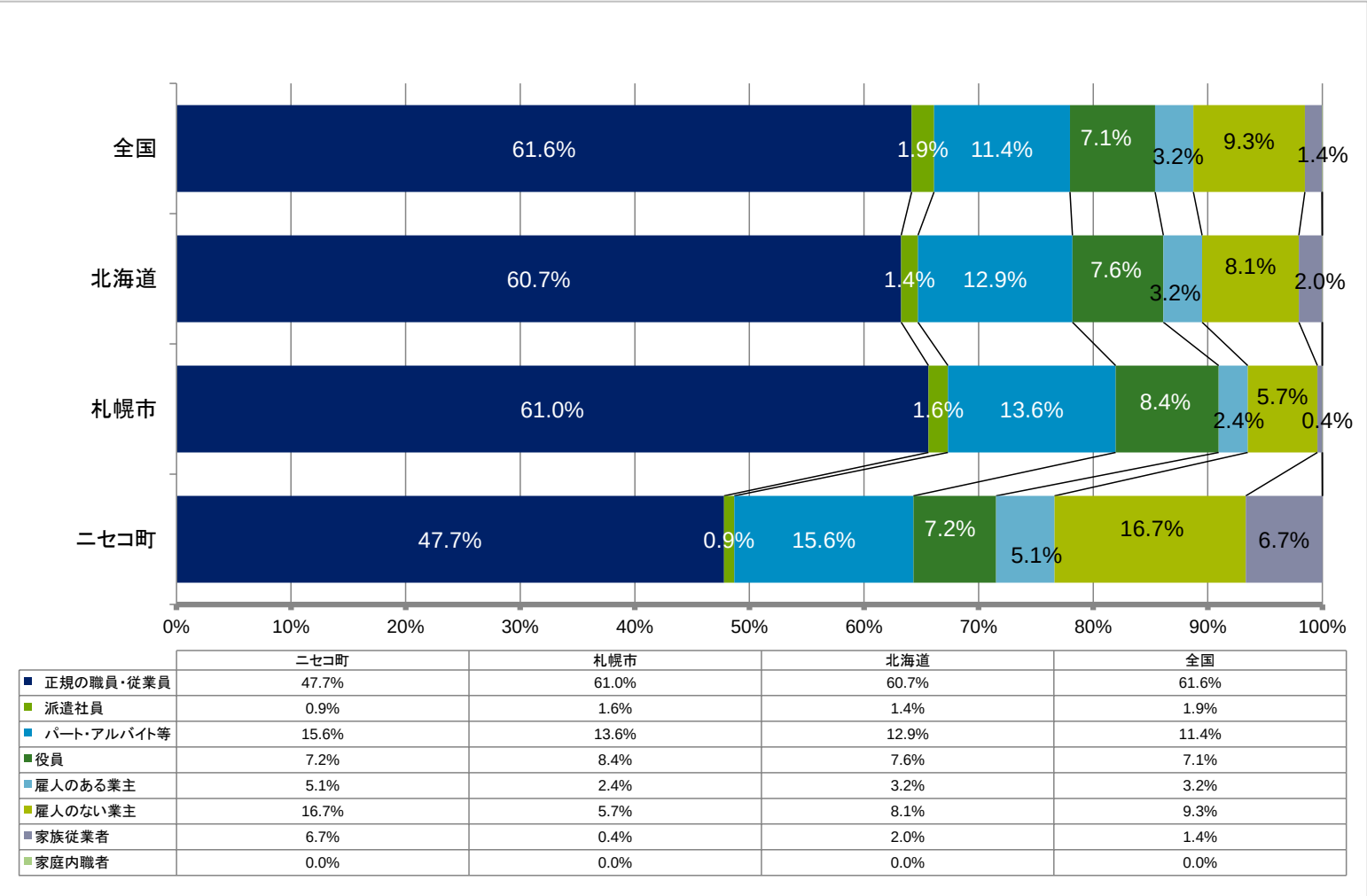
正規雇用を増やすべきか？

「家族従業者」「家庭内職者」とは何のこと？

近隣町村と比べるとどうか？

男性の正規職員割合は、全国水準、北海道水準よりも下回っています

従業上の地位別従事者(男性)



- 男性の正規職員割合は、全国水準を13.9 %、北海道水準を13.0 %下回っています
- 一方で、雇人のいない業主は7.4%、家族従業者は5.3%、全国水準、北海道水準を上回っています

女性も男性同様に、全国水準、北海道水準を下回っています

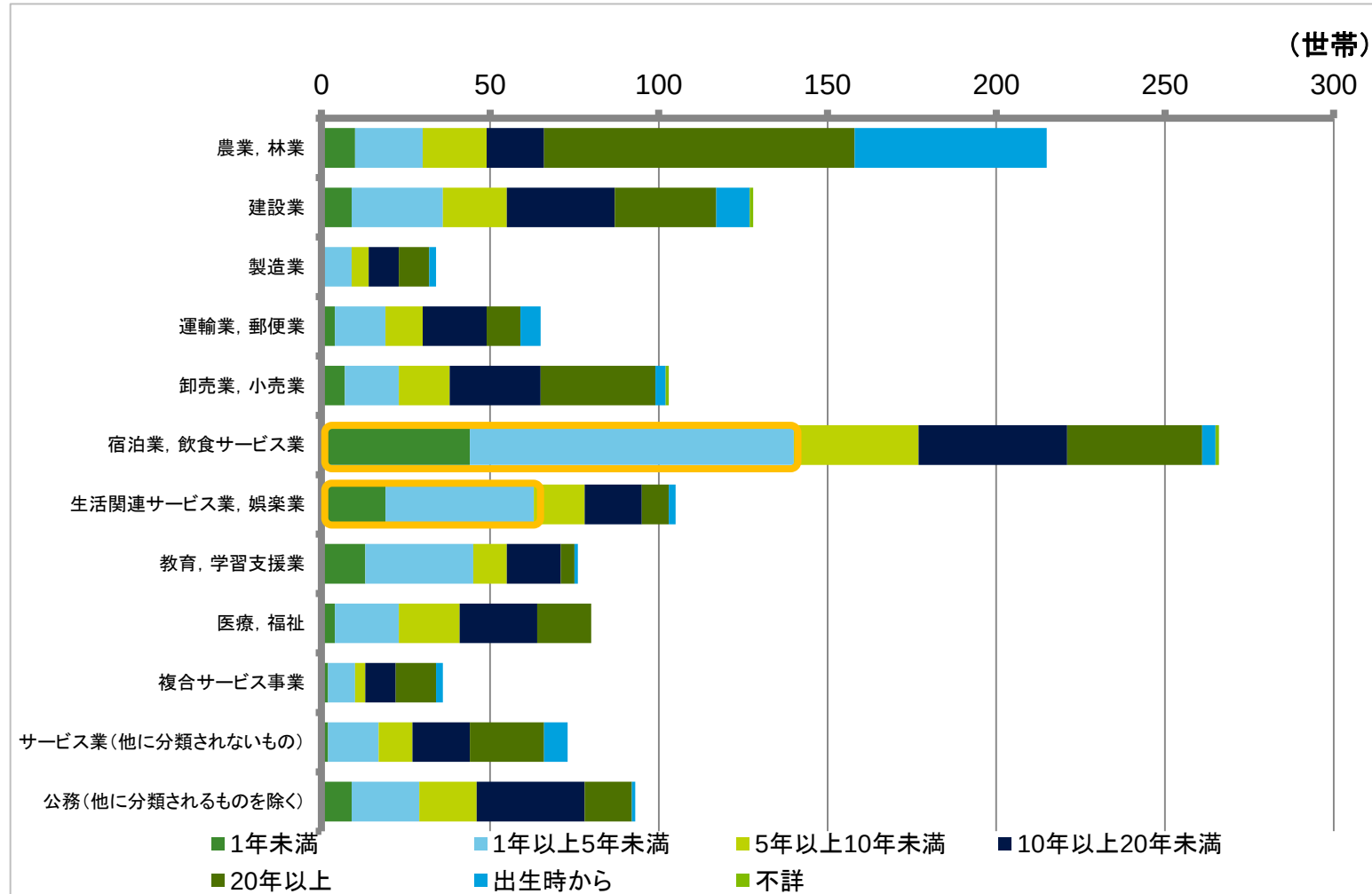
従業上の地位別従事者(女性)



- 女性の正規職員割合は、全国水準を7.2%、北海道水準を3.9%下回っています
- 一方で、雇人のない業主は0.9%、家族従業者は15.4%全国水準を上回っています

居住期間が1年未満の世帯では、「宿泊業、飲食サービス業」に従事する世帯が最も多くなっています

主な産業の居住期間別世帯数



■ 1年未満、1年以上5年未満で最も多いのは、「宿泊業、飲食サービス業」であり、140世帯となっています

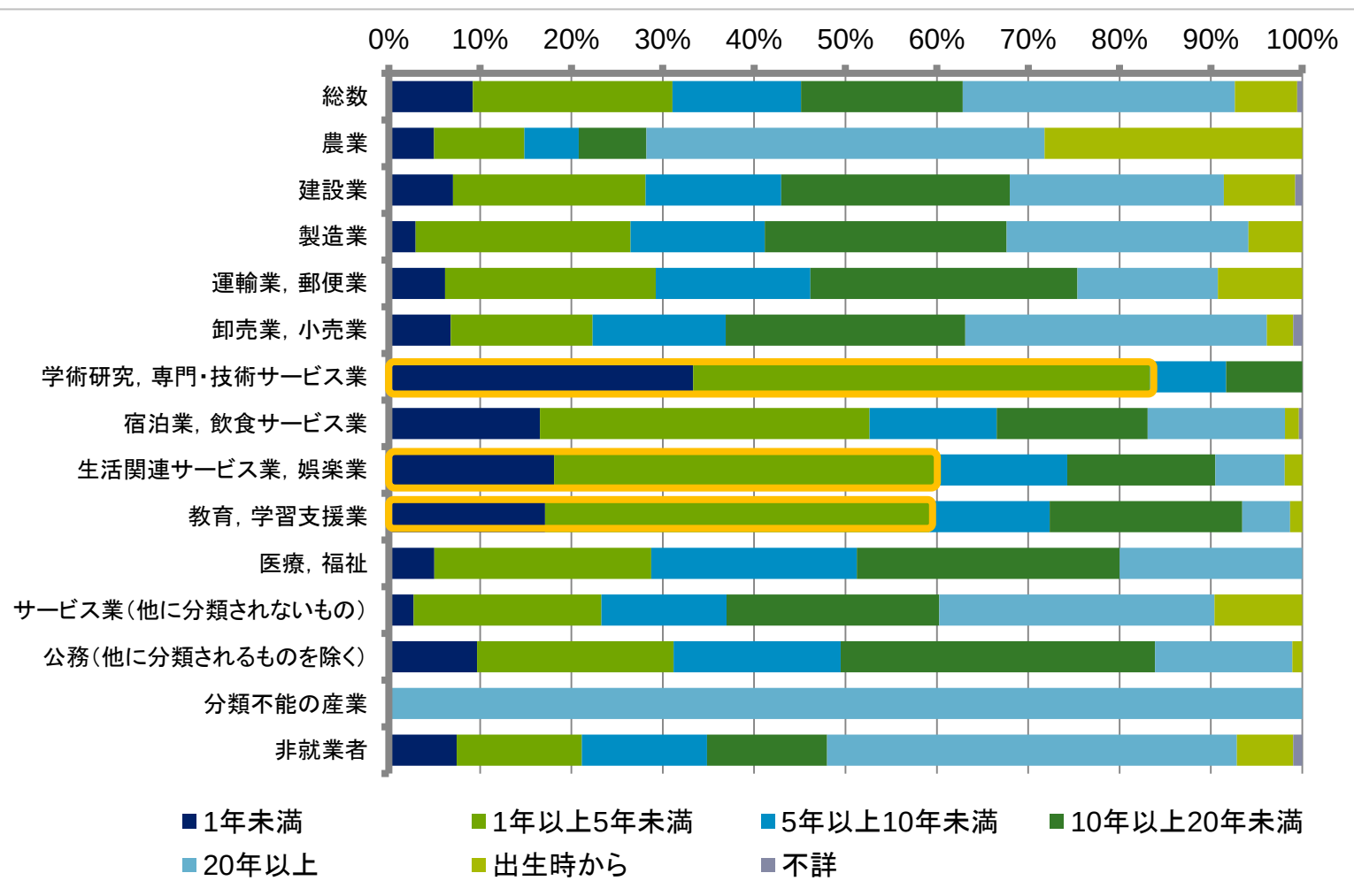
■ 1年未満では「生活関連サービス業、娯楽業」が続きます

■ 1年以上5年未満も同様に「生活関連サービス業、娯楽業」が続きます

農業は「ベテラン向け」
農業の支援はどうあるべきか？

各産業中、5年未満の居住期間である世帯の割合が高いのは、「学術研究，専門・技術サービス業」に従事している世帯です

主な産業の居住期間別世帯数の割合

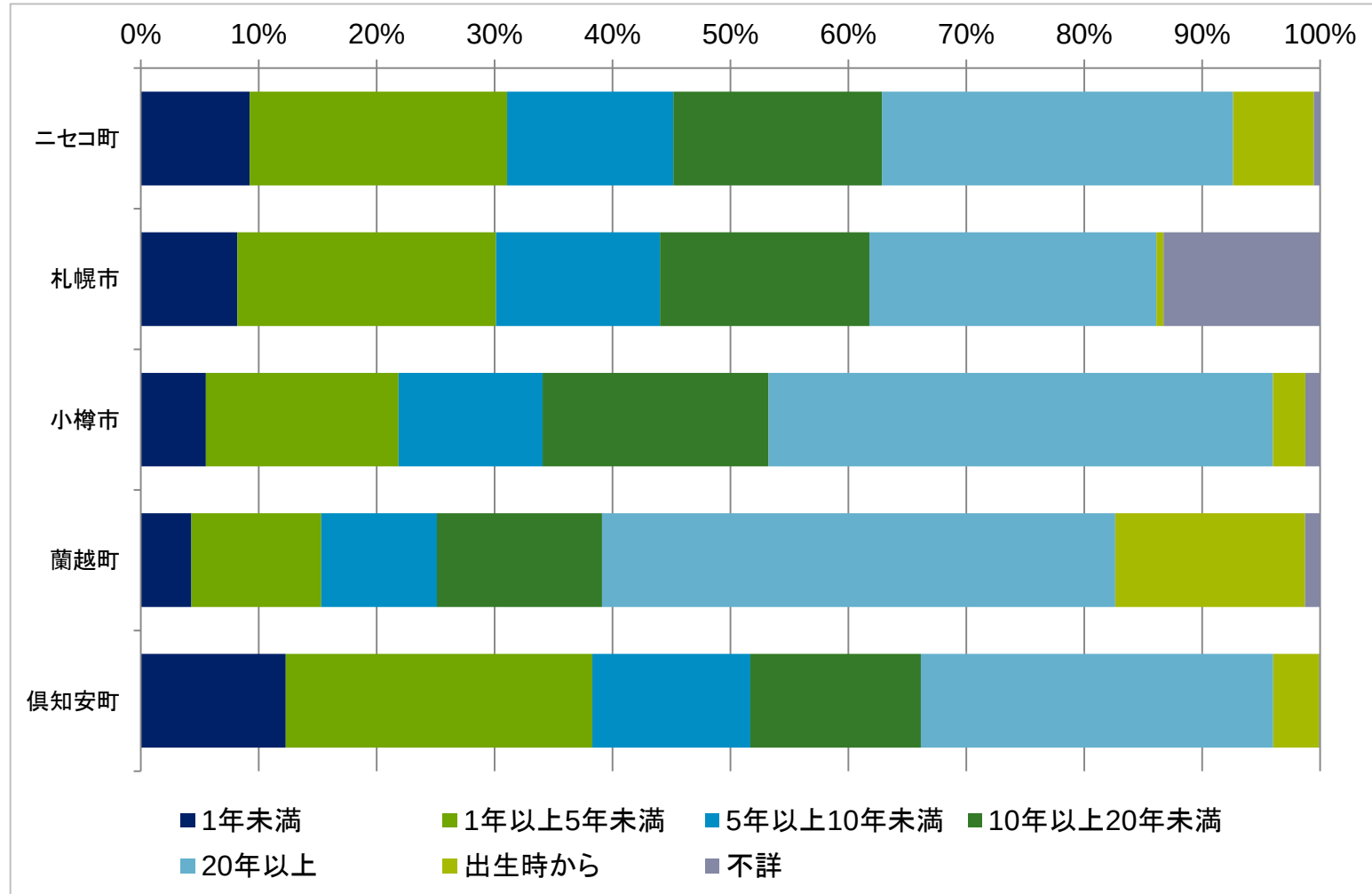


■「学術研究，専門・技術サービス業」に次いで多いのは、「宿泊業，飲食サービス業」、「生活関連サービス業，娯楽業」です

「学術研究、専門・技術サービス業」は具体的にどこのこと？

居住期間が5年未満の世帯数の割合は、札幌市と同様の水準で、小樽市、蘭越町よりは高くなっています

居住期間別世帯数の割合の比較



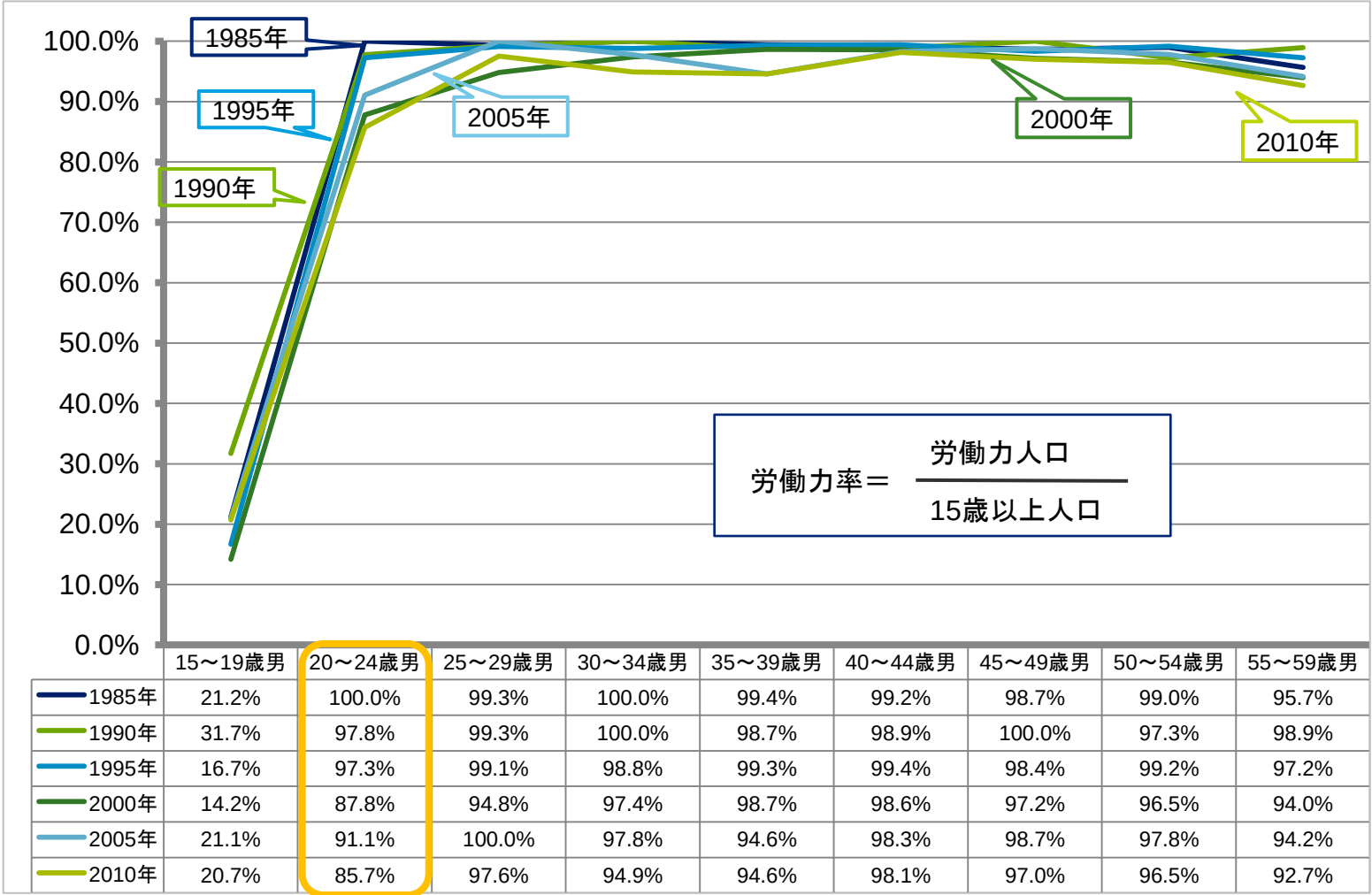
- 居住期間5年未満の世帯数の割合は、30%を超えています
- 次いで「20年以上」、「10年以上20年未満」の割合が高くなっています

移住が多いが、
定住につながっているのか？

定住と循環どちらを目指すべきか？

20～24歳の男性の労働力率は、約85%まで低下しています

男性年齢階級別労働力率の推移

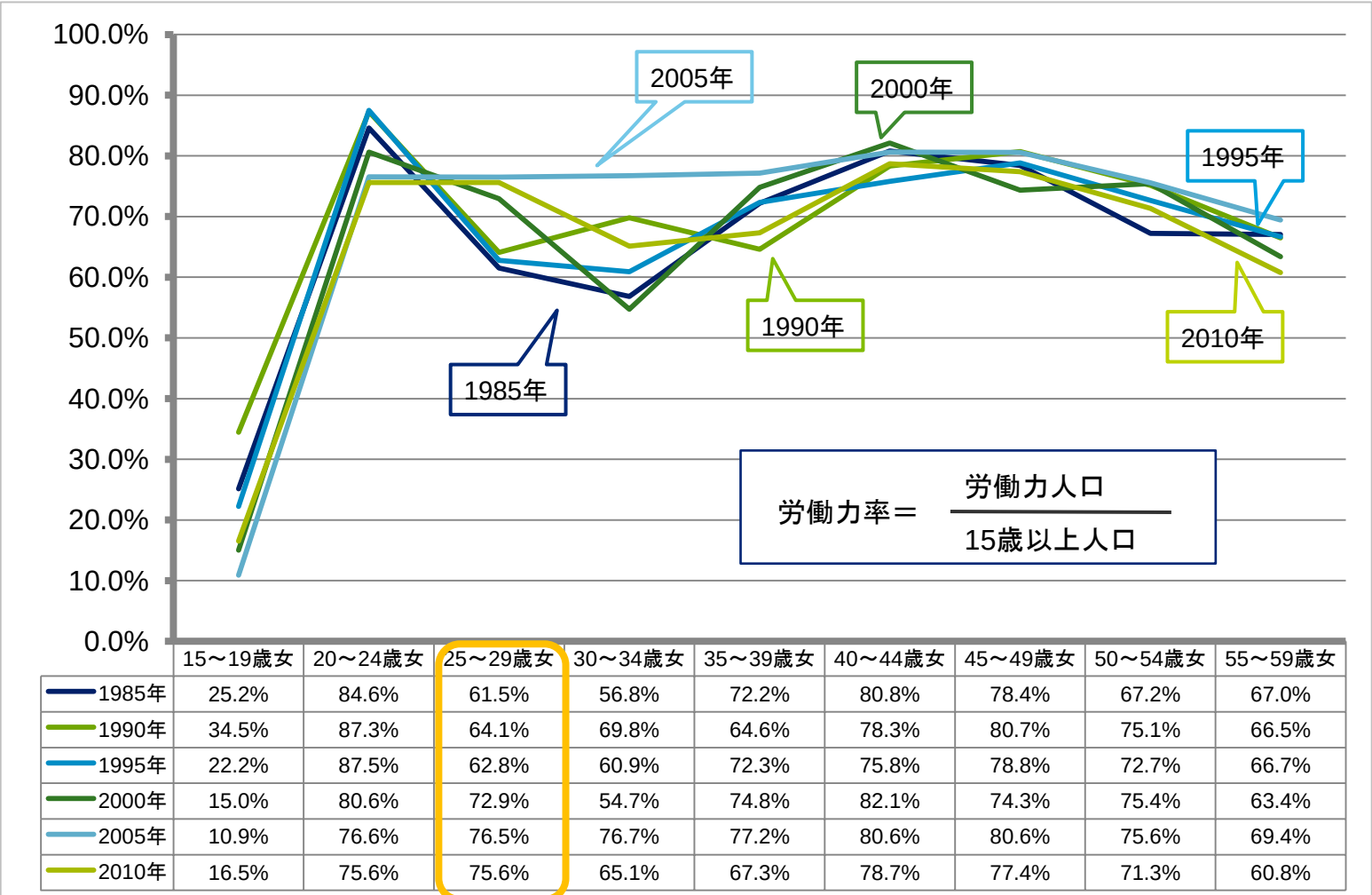


- 2000年以降、20～24歳の男性の労働力率が低下しています
- 1995年までは95%超でしたが、2000年以降は低下しています

出所: 国勢調査(1985年～2010年)

女性の労働力率は25歳以上で上昇しており、特に25～29歳で大きく上昇しています

女性年齢階級別労働力率の推移

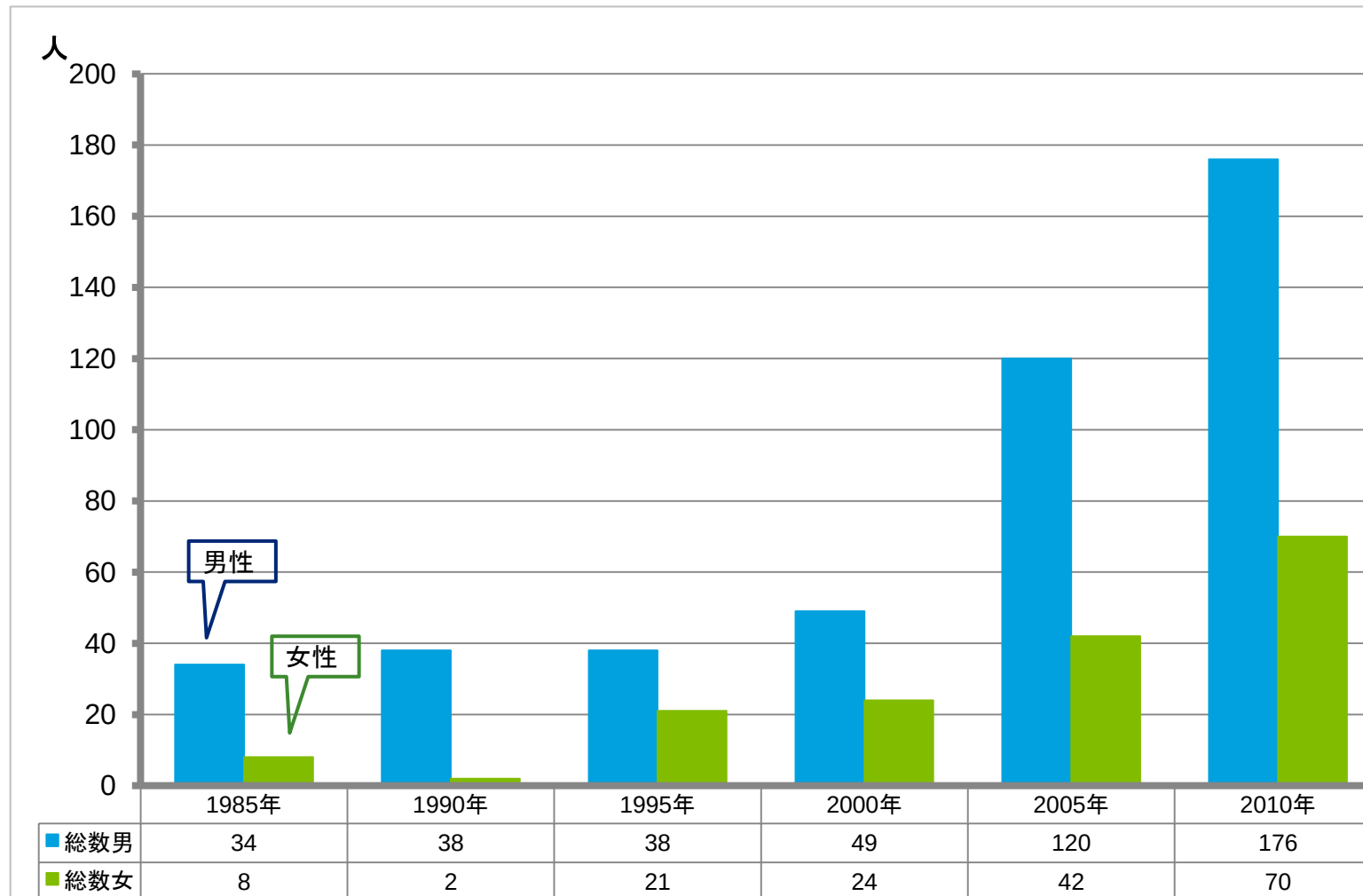


- 女性の労働力率のグラフが、25歳以上で上昇しています
- 25～29歳の女性の労働力率が増加し続けています。25～29歳は1985年に61.5%でしたが、2010年には75.6%となっています

出所: 国勢調査(1985年～2010年)

本町の完全失業者数は、男女共に1990年から増加しつづけています

男女別完全失業者数の推移



■ 本町の完全失業者数は、1990年から男女ともに増加傾向が続いており、2010年の男性の完全失業者数は176人、女性の完全失業者数は70人となっています

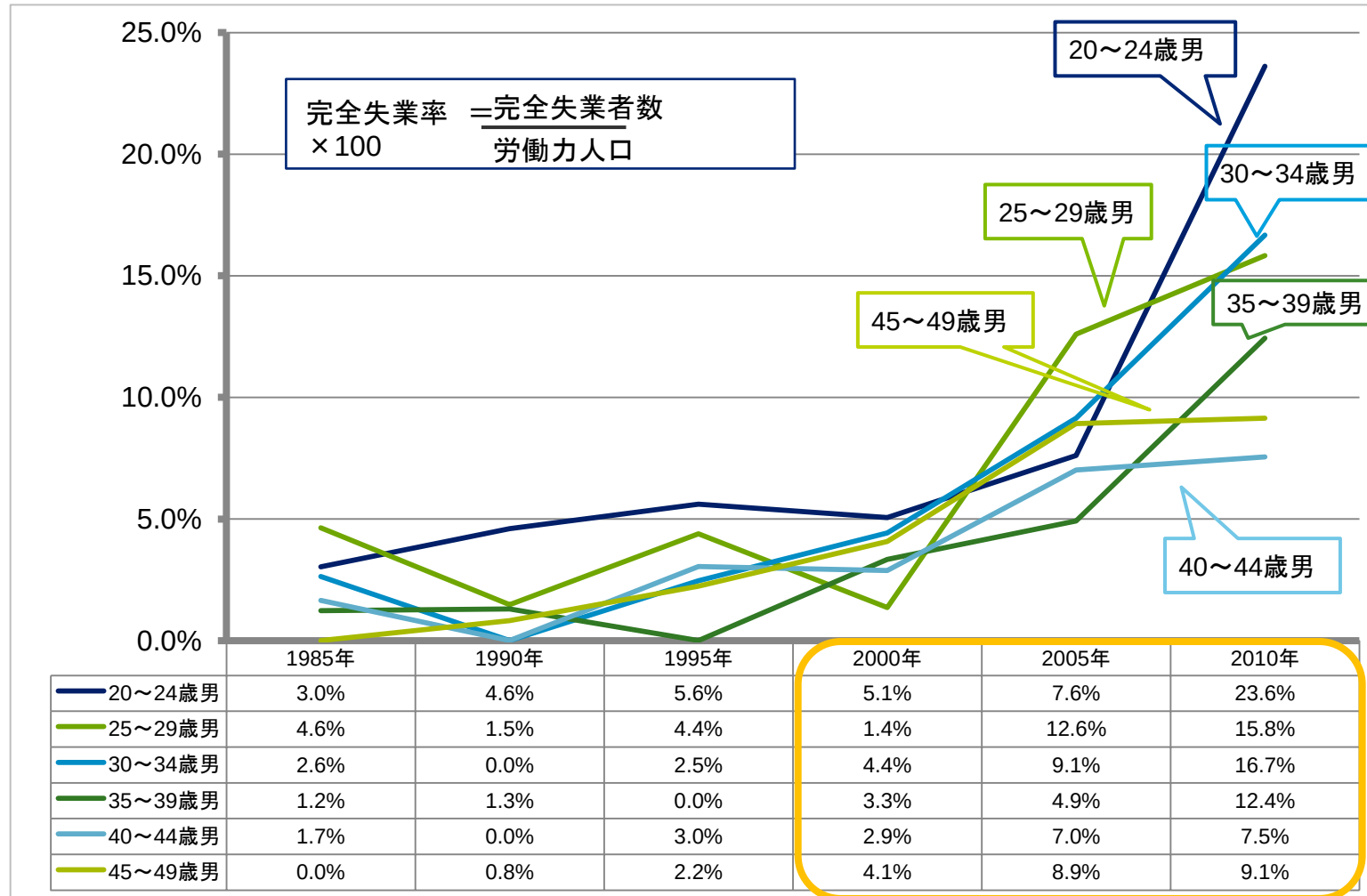
2000年頃、完全失業者が増えるような直接的な契機があったのか？

完全失業者の移住者がある？

出所：国勢調査（1985年～2010年）

男性の年齢別完全失業率を見ると、2000年から2010年にかけて上昇しており、特に20～39歳で高くなっています

男性年齢別(20～49歳)完全失業率の推移



■ 2000年から2010年にかけて、20～24歳の上昇幅は大きく、5.1%から23.6%へと大幅に上昇しています

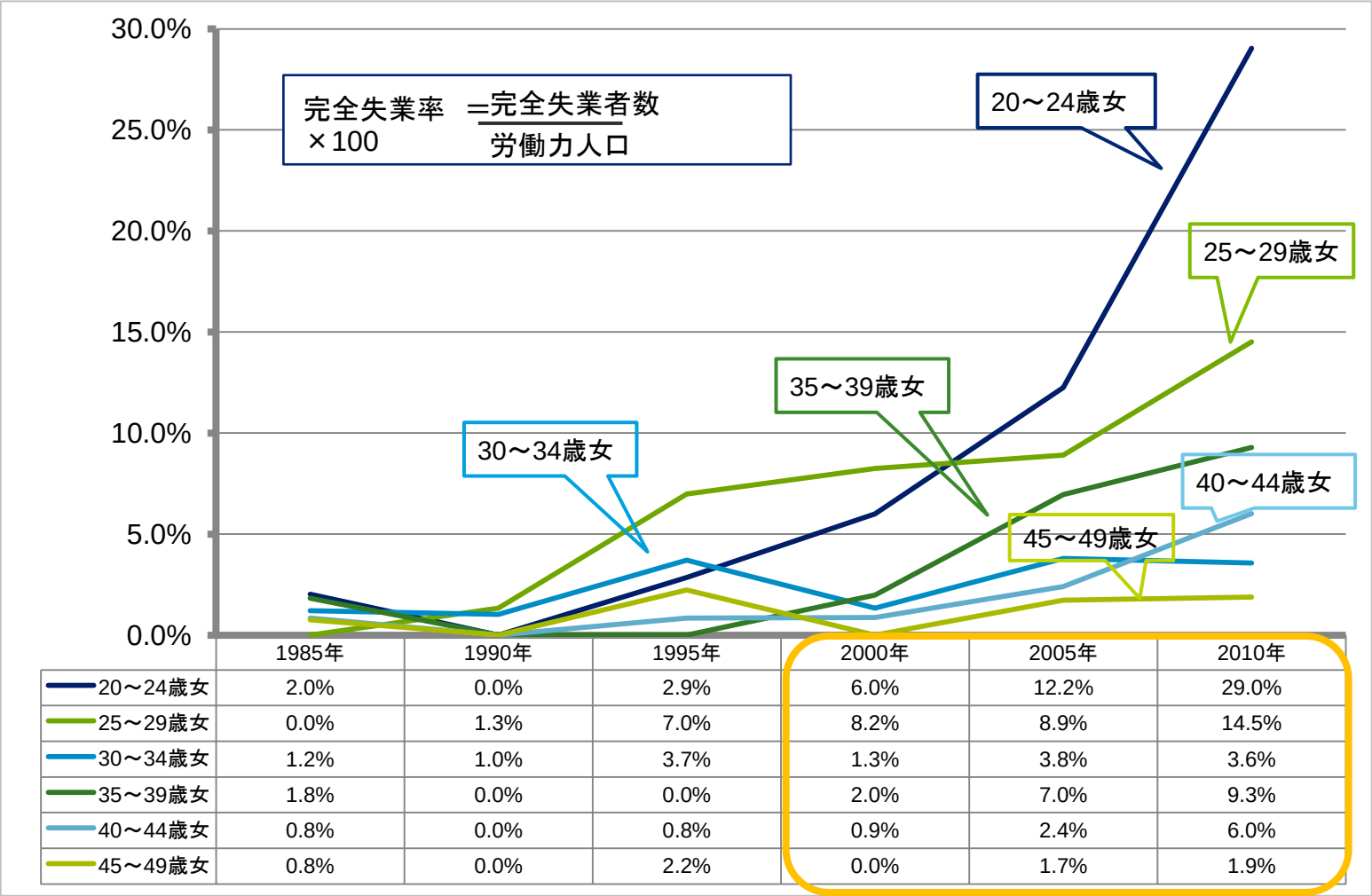
■ 2000年から2010年にかけて、30～34歳の上昇幅は大きく、4.4%から16.7%へと大幅に上昇しています

※参考値：20歳～24歳男性の完全失業率 全国11.0%、北海道12.8% (いずれも2010年のデータ)

転入が多い世代だが、どのように生計を立てているのか？

男性と同様に、完全失業率が2000年から2010年にかけて上昇しており、特に20～29歳で高くなっています

女性年齢別(20～49歳)完全失業率の推移



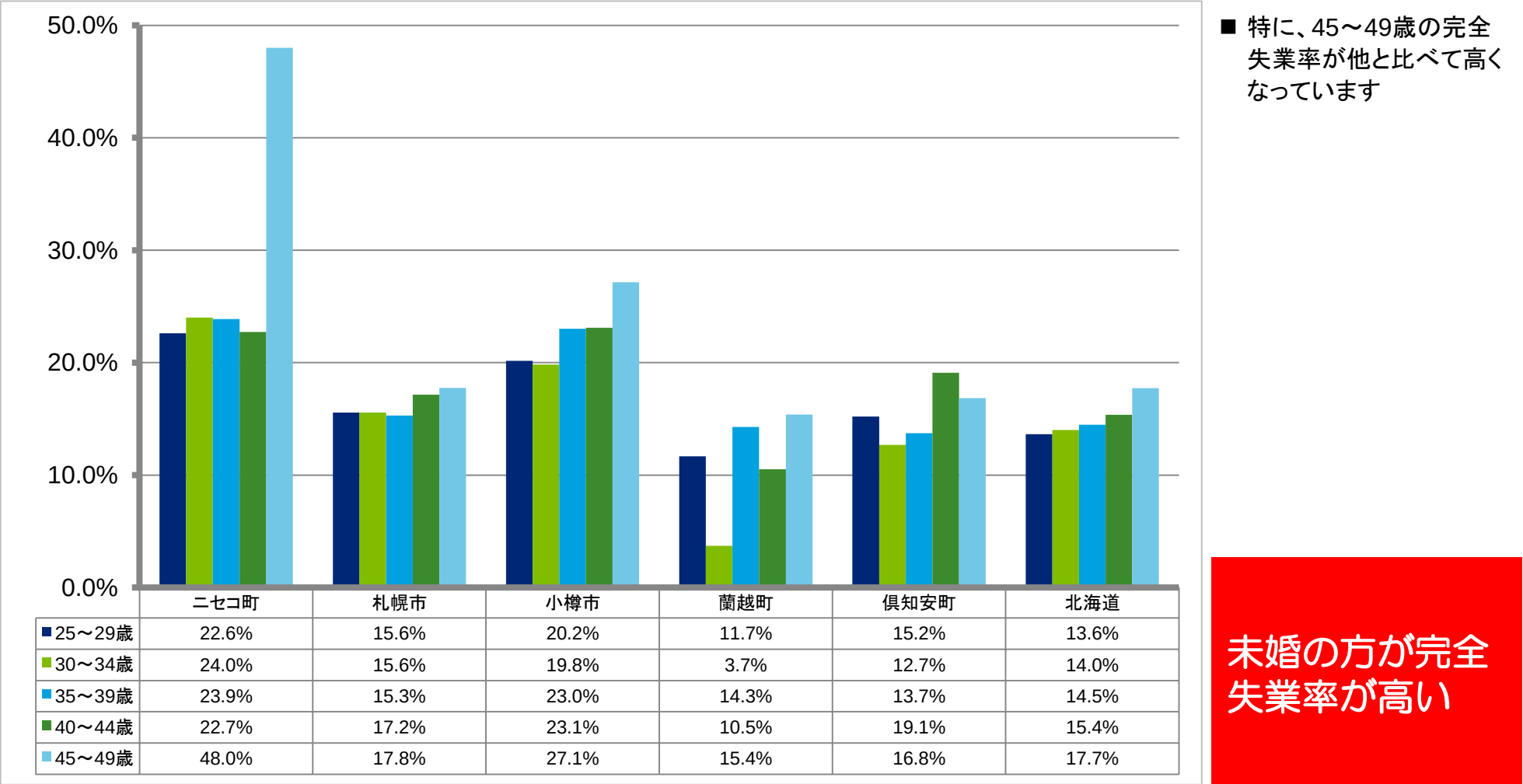
■ 女性の中でも20～29歳の完全失業率が高く、特に2005年から2010年にかけて、大幅に上昇しています

※参考値：20歳～24歳女性の完全失業率 全国 8.7%、北海道10.3%(いずれも2010年のデータ)

出所：国勢調査(1985年～2010年)

未婚男性の年齢別完全失業率を比較して見ると、各年齢ともに北海道水準、道内各市町水準よりも高くなっています

未婚男性における年齢別完全失業率の比較

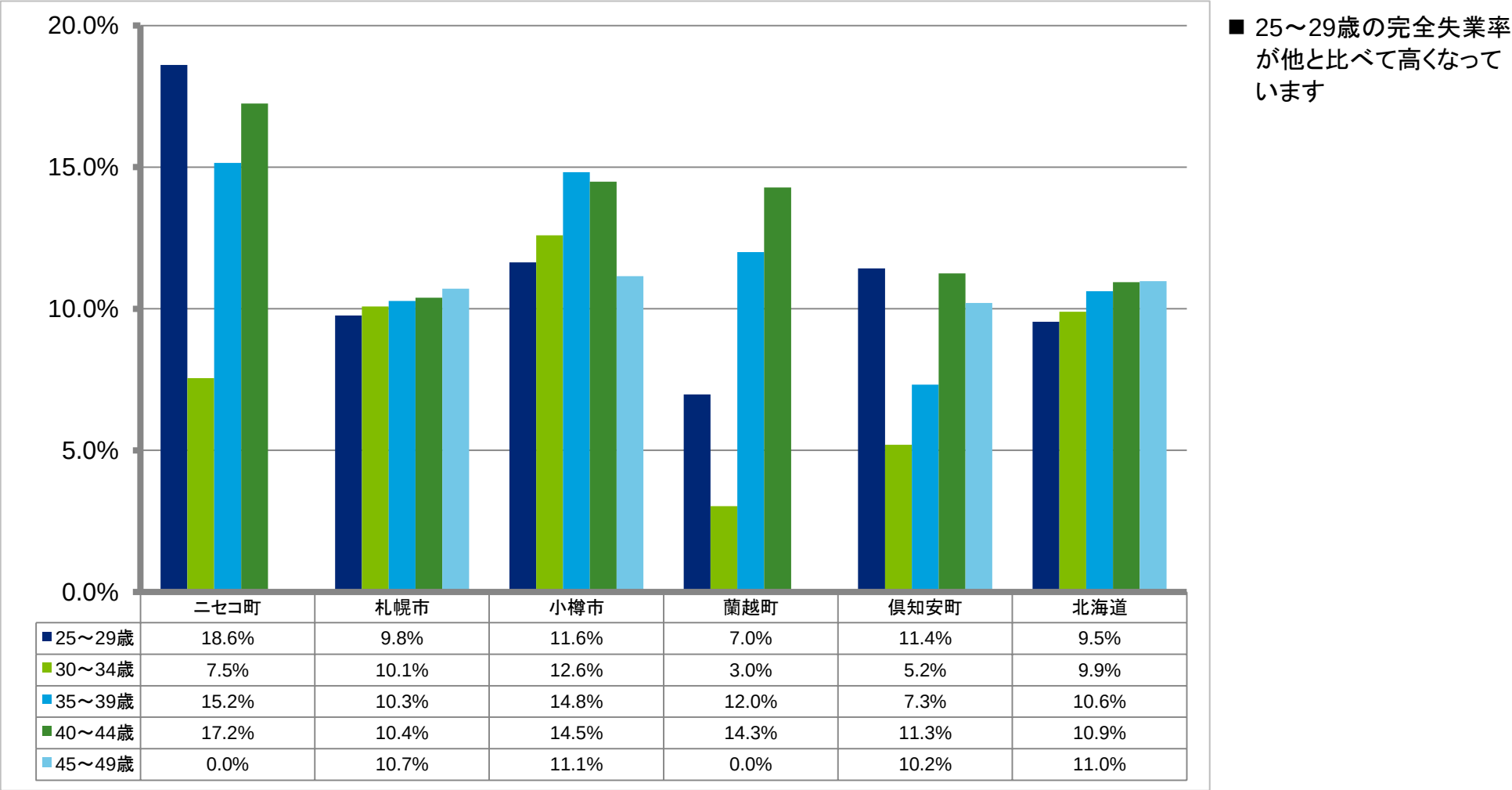


未婚の方が完全失業率が高い

出所: 国勢調査 (2010年)

未婚男性と同様に、未婚女性の完全失業率も北海道水準、道内他市町と比べて高く、特に25～29歳で高くなっています

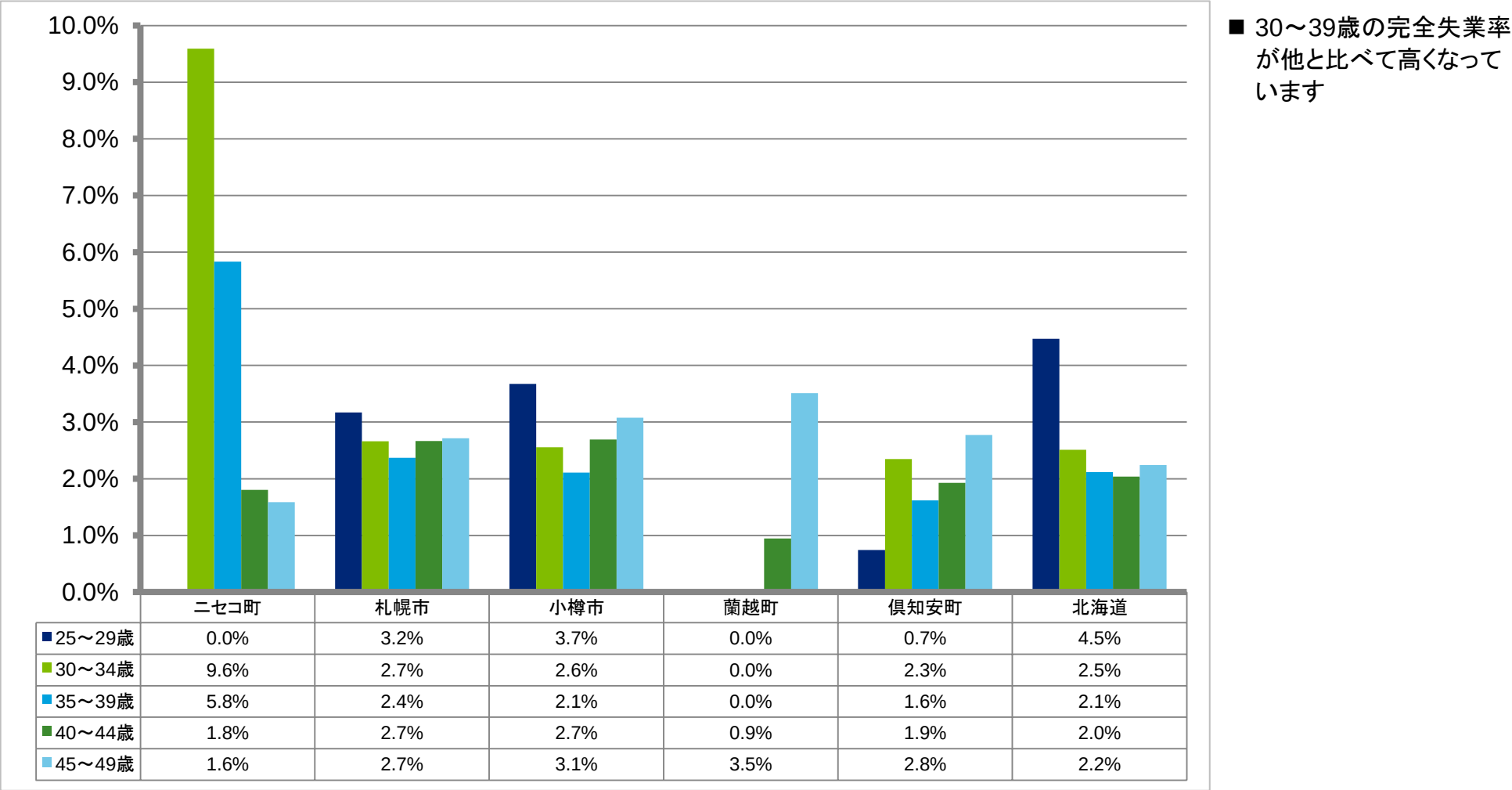
未婚女性における年齢別完全失業率の比較



出所: 国勢調査 (2010年)

有配偶男性の年齢別完全失業率を比較して見ると、30～39歳で北海道水準、道内他市町水準よりも高くなっています

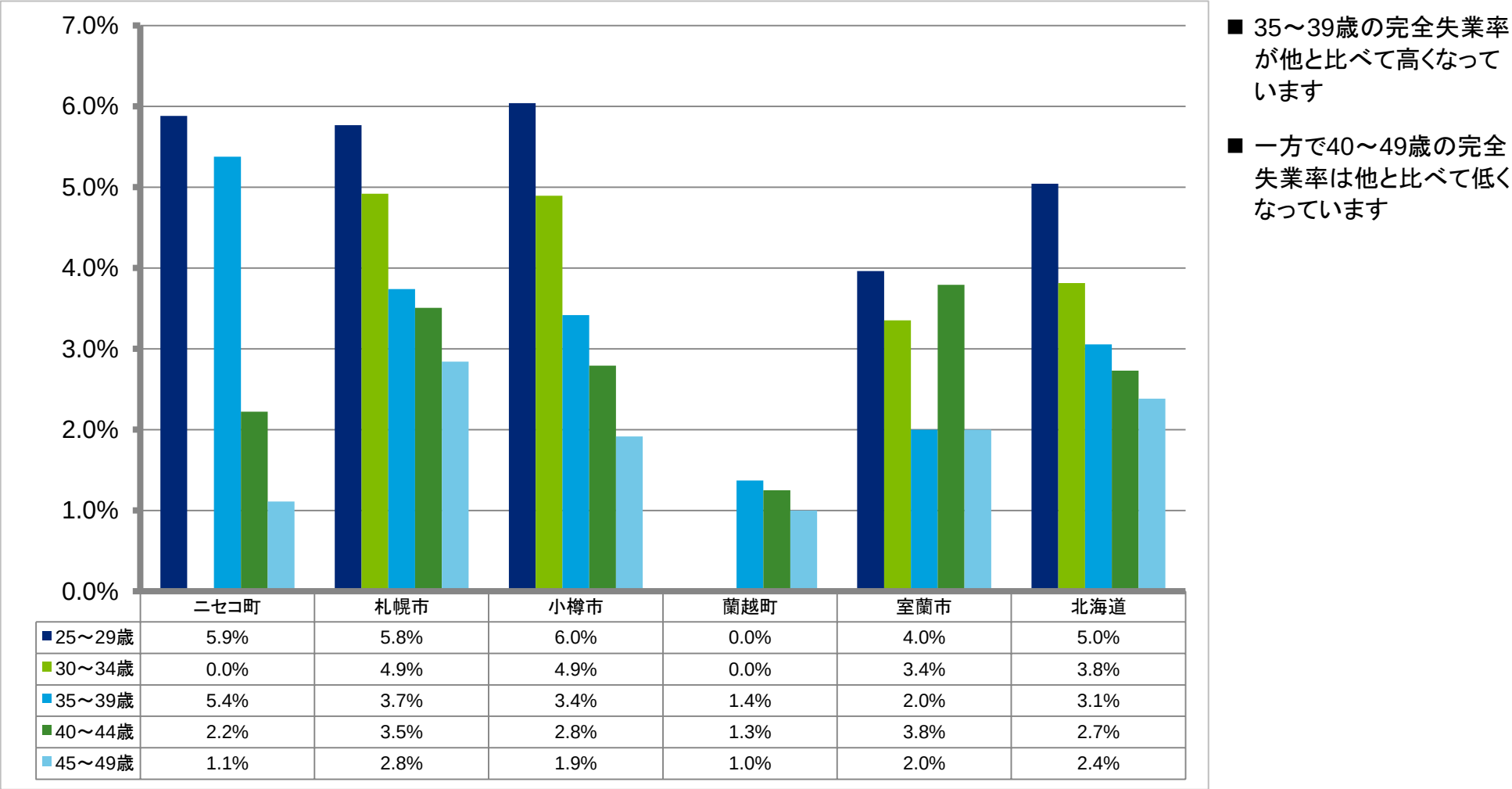
有配偶男性における年齢別完全失業率の比較



出所: 国勢調査(2010年)

有配偶男性と異なり、有配偶女性の完全失業率は40～49歳で北海道、道内他市町に比べて低くなっています

有配偶女性における年齢別完全失業率の比較



出所: 国勢調査(2010年)

3. 「客観的データ」を使いこなす

「客観的データ」を使いこなす

地域経済分析システム（RESAS：リーサス）を使えば、誰でも簡単に「客観的データ」を入手できる。地域特性に応じたアイデアを積極的に提案しあう町を目指すべき。

産業マップ

- 稼ぐ力分析
- 特許分布図
- 輸出入花火図
- 海外への企業進出動向

農林水産業マップ

- 農業花火図
- 農産物販売金額
- 農地分析

観光マップ

- From-to分析（滞在人口）
- 滞在人口率
- メッシュ分析（流動人口）
- 外国人訪問分析
- 外国人滞在分析
- 外国人メッシュ分析

人口マップ

- 人口構成
- 人口増減
- 人口の自然増減
- 人口の社会増減
- 将来人口推計

自治体比較マップ

- 経済構造
企業数、事業所数、従業者数（事業所単位）、製造品出荷額等、年間商品販売額、付加価値額（企業単位）、労働生産性（企業単位）
- 企業活動
創業比率、黒字赤字企業比率
- 労働環境
有効求人倍率、一人当たり賃金
- 地方財政
一人当たりの地方税・市町村民税法人分・固定資産税

※1 上記は公開データのみ

※2 Google Chromeが必要（Internet Explorerでは使用できない）